

令和 6 年度
サクラマス・プロジェクト

キャリア教育 報告集



「アントレプレナーシップ教育」



島根県立吉賀高等学校

目 次

巻頭言	1
キャリア教育推進連携表彰について	2
吉賀高校のアントレプレナーシップ（アントレ）教育とは	3～4
3年生 アントレを振り返って	5～11
アントレ校内発表会	12～14
アントレ成果発表会	15～19
生徒スライド	20～65
1年間のアントレを振り返って	66～67
吉賀高校アントレ 講評	
関西国際大学 経営学部 教授 樋田 大二郎	68～69
法政大学 キャリアデザイン学部 教授 寺崎 里水	69～71
桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群 准教授 山崎 慎一	71
L U C K株式会社 小川 凛一	71～72

巻 頭 言

島根県立吉賀高等学校
校 長 勝 部 千 良

吉賀高校のキャリア教育は、「総合的な探究の時間」を中心に、1年次（課題発見期）、2年次（課題解決期）、3年次（課題発展期）の連続性を大事にしながら「アントレプレナーシップ教育」（以下、アントレ）に取り組んでいます。

今年度、吉賀町の保・小・中・高及び町教委を含めた教育関係者、町行政、高大連携における大学関係者、地域等が連携・協働し、10年以上にわたって取り組んできたキャリア教育プログラムを背景とした「吉賀高校版 サクラマスプロジェクト」が、「第13回キャリア教育推進連携表彰」（文部科学省・経済産業省共同）の優秀賞を受賞いたしました。これまで多大なご支援をいただいた皆様方に心より感謝申し上げます。そして、これからも本校は課題解決型学習等を通して地域や社会を支える人材の育成に尽力していく所存です。

さて、今年度の「アントレプレナーシップ教育成果発表会」は令和7年3月17日（月）に開催いたしました。午前中に本校にて1、2年生が個人で発表を行いました。そして、午前中の発表から選考を経て、午後は各ブース代表者による発表をし、コメンテーターである大学の先生方からいろいろな観点からご講評をいただきました。生徒たちは自ら設定したテーマについて探究を深め、スライドにまとめ、聴衆の皆様を前に堂々と発表しました。

本冊子は、「アントレプレナーシップ教育成果発表会」で発表した内容の報告集であり、掲載されているスライド1枚1枚に生徒たちの学びの軌跡が表現されています。令和6年度は3学年とも新教育課程となった完成年度であり、全校生徒の個人学習端末利用もあわせて完了した年度です。生徒たちには、吉賀町という学びのフィールドを含めたこのような学習環境で、自ら発見した地域課題への当事者意識を高め、今後、その課題とどう向き合い、どのような形、方法で地域、社会へ貢献していくのかということを考えてほしいと思います。

最後になりますが、アントレを多方面から支えていただいております大学の諸先生方、そして日頃からご指導いただいております地域の皆様方に心より感謝申し上げます、巻頭言といたします。

第 13 回キャリア教育推進連携表彰(文部科学省・経済産業省共同実施) 「吉賀高校版 サクラマスプロジェクト」優秀賞

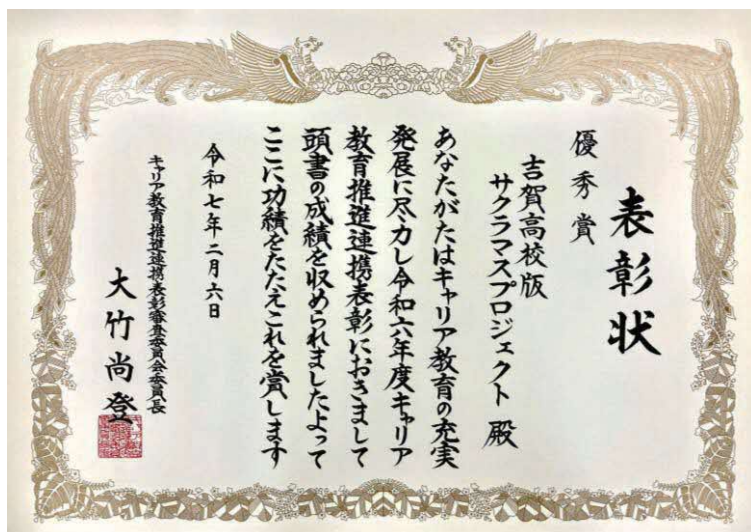
サクラマスプロジェクトは、吉賀町の教育の長期的な取り組みであり、柱でもあります。学校・家庭・地域が一体となり、ふるさと吉賀町での豊かな学びや体験、多様な人との交流を充実させ、いつの日かふるさと吉賀町を支える人材(財)を育てるという、吉賀町の保・小・中・高すべての子どもを対象にしたキャリア教育プログラムであり、吉賀高校のスクールミッションと重なる取り組みです。高校に関しては、平成18年に学級数が2から1に減り、町で唯一の高校が存続の危機を迎えましたが、地域と一体になり吉賀高校の存続と教育の魅力化を図り、平成25年にサクラマスドリームプロジェクトという名称で高校版がスタートしました。

吉賀高校では「アントレプレナーシップ教育」を核とした教育を展開し、地域をフィールドにした探究的な学びを推進してきました。地域社会の特長や課題を知り、自己と社会の接点を探るため、あるいは生徒の考案したプロジェクトを実践するために、地域の様々な主体との協働が欠かせません。公民館や保育所、社会福祉協議会、社会福祉法人よしかの里福祉会、その他町内企業や個人事業主と連携しながら高校生の学びを深めています。

吉賀町内の各中学校も、このサクラマスプロジェクトの一環として、それぞれ独自のキャリア教育やふるさと教育に力を入れています。こうした活動で身につけた力、知識、感性、人脈などは、キャリア・パスポートにも蓄積され、そのまま吉賀高校の「アントレプレナーシップ教育」に生かされ、個々のキャリア形成へとつながっています。

また、高校3年生が町内全小学校に出かけ、自らのキャリアを語り、小学5・6年生と対話する「サクラマス・とーく!」を毎年実施していますが、小学生の良きロールモデルとなり、次世代へとバトンをつなぐ学びの循環を創り出しています。

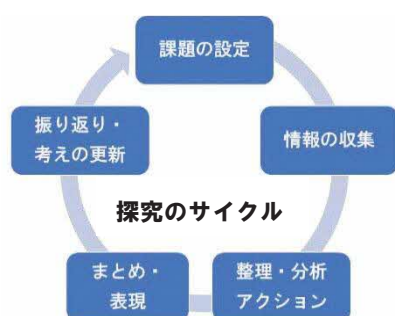
こうした長年にわたる町ぐるみのキャリア教育プログラム、町と高校の連携が高く評価され、優秀賞に選出されました。今後も地域の未来を切り拓く人材の育成のために、地域と連携したキャリア教育の充実を図ってまいります。



2月6日(木)「令和6年度キャリア教育推進
連携シンポジウム」内で行われた表彰式に
中村美楠子教諭が出席しました

吉賀高校のアントレプレナーシップ教育（アントレ）とは

吉賀高校では総合的な探究の時間を「アントレプレナーシップ教育（通称アントレ）」と称しプロジェクト型探究学習を行っています。アントレプレナーシップとは「起業家精神」を意味しますが、この変化の大きい不確かな時代に、仕事が無いなら自ら創るマインドとスキルを身につけるための授業と位置づけ、「未来を創る力」を育成する探究学習を展開しています。この授業の中で、自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そして地域社会における需要（Need）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、地域をフィールドとして実践に移し、探究のサイクルを回していきます。



1年生はまず探究の型を習得することと、協働する力を身につけることを重要視し、興味関心に応じて7つのグループに分かれて探究活動を進めてきました。テーマ設定に入る前に、地域を知り社会を知る意味で、RESASを用いて吉賀町について調べたり、NHK地域づくりアーカイブスを活用したり、フィールドワークに度々出かけて話を聞いたりして視野を広げました。地域をフィールドとして探究活動を行う本校としては欠かせないパートナーである各地域の公民館の皆さんや町内事業所の皆さんに協力を仰ぎ、地域活動に参画させてもらいながら、自分たちのプロジェクトを考え実践していきました。

また、青山学院大学・法政大学・桜美林大学との高大協働研究を1年生対象に行い、大学生と交流しながら探究学習を深めてきました。8月下旬に吉賀町に大学生が、10月には東京に高校生が訪問し、それぞれの地でフィールドワークを行いました。オンラインで顔合わせをしたり、打ち合わせをしたりもしましたが、やはり実際に会って話をしたり、一緒に出掛けたりする中で対面でしか味わえない喜びと刺激をもらいました。年間を通して、多様な視点からの意見やアドバイスをもらい、壁打ちしてもらいながら、沢山の学びを得ることができました。また、今年度は本校卒業生が大学生となって参加してくれましたが、サクラマスとなって活躍してくれて心強かったです。



2年生は、改めて自分の進路と向き合いながらテーマ設定を行い、個人またはグループでそれぞれに試行錯誤し、アントレの活動を進めてきました。今年度も2年生はNPOカタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」に参加し、他県の小規模校とのオンライン交流を年

3回実施しました。県外の高校生たちと交流し、互いの探究活動を知ることができ、刺激を受けたようです。また、秋には大正大学地域創生学部の大学生と交流し、大学生のこれまでのキャリアに触れ、アントレについての情報交換などもしました。限られた時間の中でも、視野を広げることができました。



3年生は7月に最終発表会を行いました。それぞれ3年間のアントレを振り返り、自身の成長や後輩へ伝えたいことなどを堂々と発表してくれました。中には就職試験、受験勉強と並行して、3学期までアントレの活動を継続する生徒もありました。そして2学期末には、「サクラマス・とーく！」で町内全小学校に出向き、これまでの人生について語り、小学生と交流をしましたが、小学生の気持ちを考えながら、言葉を選んで自らの学びを振り返り語る姿はとても輝いていました。



本校のアントレは地域の方々の協力があってこそ成り立っています。どのプロジェクトも、地域の現状を聞き取り、プロジェクトを考え、様々な方にご協力いただきながら実践に移しています。また、大学生と一緒に地域のリアルに触れ、机上の空論ではなく地に足の着いた学びを展開できているのは、お忙しい中でも時間を割いていただき、高校生・大学生に機会と場を提供いただいている地域の皆様のおかげです。

2月の成果発表会は感染症拡大のため延期となり、3月に改めて実施となりました。当日はオンラインで中学生を始め地域の方々にも多数ご視聴いただきました。当日お越しいただいた講師の皆様には、代表生徒の発表をじっくりと聞いて励ましのお言葉をいただきましたこと感謝申し上げます。また、日頃より本校のアントレにご協力いただいている大学の先生方にも改めて感謝申し上げます。

3年前より、2月の成果発表会は個人の発表としています。午前中には一人ひとりがアントレを通して感じたこと、壁にぶちあたったこと、成長したことなどを自分の言葉で語りましたが、多くの発表で「自分一人では到底無理だったけど、チームのメンバーや地域の方、先生方に協力してもらって実践につなげられた」というような言葉が見受けられました。本当にたくさんの方々を支えられて行ってきたアントレですが、今年度の高校生たちのプロジェクトの内容、アントレを通じての学びや成長などをまとめたスライドをこの報告集には掲載しております。個人ではなくプロジェクト毎の報告を16枚という枚数制限の中でまとめたものになりますが、ご覧いただければと思います。そして、吉高のアントレの発展のため、これからもご助言・ご協力をお願いいたします。



3年生 アントレを振り返って

【吉賀町をフィールドとし、地域の人と交流する】

吉賀町は空気が綺麗で星が見やすいことと、個人的に天文学に興味があったので、天文学を通して地元の小学生に吉賀町の良さを知ってもらうことを目標に吉賀町 PR として活動していました。このプロジェクトでは小学生に対して箱プラネタリウムを作るワークショップを開きました。実際に問題が起きている場所やその環境にいる人にお話を聞くことで見えてくるものがあったり、プロジェクトの進め方のアドバイスをいただいたりしました。2年次で七日市小学校にプロジェクトのワークショップの提案をさせていただいたときに、何年生を対象にするかを相談して決めたいということ伝えたら、「相手のことを考えて融通が利くようにするのは大事だ」と言ってもらえたので、3年次でもそこに気を使って、行動できたかなと思います。

地域の方と交流することの意義はものすごくたくさんあると思います。私はアントレのフィールドワーク以外にも地域のボランティアに参加しましたが、地域の方と関わる機会がたくさんあって、そういった活動をしていくなかで地域の温かみを感じることができました。地域の方がいかに高校生のことを大切に思っているのか、そして、高校生が町のイベントに参加したり、アントレで町に出て活動をしたりすることが、いかに町に活気をもたらしているのかということを実感しました。地域の方々は私たちを応援してくれているし、こういった活動をしていることにとっても喜ばれているので、私たちもそれに応えなければいけないなと思いました。それに、地域の方と直接話してみないとわからないことがたくさんあります。何かに対して地域の人はどう思っているのかはグーグルで調べても出てこないし、自分で考えてもそれは客観的な意見ではないので、自分の考えを押し付けているだけになってしまいます。そうならないためにも地域の方と交流して、本物の意見を聞くというのが大切だと思います。それを聞くことでより自分のプロジェクトも良くなり、自分自身においても何か気持ちが変わるきっかけになるのではないかなと思います。



地域の人々との交流を通じて、私は一人の力では為せないことが、様々な人、特に身近な人の協力により実現に近づくことを知りました。フィールドワークで質問に行けば新たなアイデアを作ることができたり、専門分野からの指摘や、長年地域を見てきたからこそその意見などを得たりすることができました。また、次のフィールドワークの行き先を紹介してもらうなど、プロジェクトを円滑に進めるために多くの力を借りたと思います。自分自身が出来ることの範囲は小さいですが、色々な人から様々な形で協力してもらうことでより早く目的に到達できました。3年間で多くの訪問を繰り返すことで、礼儀

作法なども学ぶことができました。1年生の頃は電話のマナーや名刺の渡し方など知らないことばかりでしたが、今は出来ることが増えたと思います。社会人としての意識を育てるという点でも地域住民の方々との交流は効果的だと感じました。



地域の人に協力してもらうことで、更に地域の他の人との関わりもでき、より多くの人と関わることができました。私が困ったことや協力してほしい事があったとき、球根をいただいたり、花壇を耕す機械を貸してくださったり、お花の種をくださったりと、様々な場面で助けていただくことができ、いろいろと挑戦するときにハードルが少し下がり、なんとかやり遂げることができました。また、私は花壇のアントレのプロジェクトの他に地域で活動することがあり、お祭りの売店のボランティアや、地域のブラスバンドの手助けなどをさせていただけることがありました。頼るだけでなく頼っていただけることで自信がついたり、新たに交流の機会が増えたり、人の役に立つことができたという達成感を得ることができました。

地域をフィールドとすることで、自分の住んでいる地域のイベントや活動団体のことなどを知ることができました。自分1人で活動すると自分の価値観が基準になってしまって、プロジェクトの幅が狭くなってしまうけれど、地域の人たちと関わることによって様々なアドバイスをもらえるので、自分では思いつかなかったことを発見できて視野が広がりました。アントレで地域の人と関わることで、町のイベントへの参加を呼びかけていただくなど、人と関わるが増え、とても楽しく、いい経験になりました。たくさんの人と関わることでコミュニケーション力や協調性などの能力を身につけることができ、成長できたと思います。



地域の人たちと交流したり協働したりすることの意義は、社会に出る前に高校生のうちから、たくさんの経験をしてきた大人と関わることによって、社会について少しでも知ることができることだと思います。今まで知らなかったことを知り、それを自分の知識として取り入れることができたり、様々な視点から物事を考えたりするようになります。高校生が町のことを考え、活動していくのは高校生自身の成長にもつながると共に、地域の人にも刺激が与えられ町の活性化につながるのではないかと思います。

【アントレを通して、資質・能力を伸ばす】

コロナ禍で流行ったものに目をつけて、アントレの活動をしてきました。中学時と比べて、コミ

コミュニケーション能力や広い視野が身につきました。フィールドワークやプレゼンで、自分が話したり、わからないことは積極的に質問したりしました。また、成果発表当日に、先生や大学の先生に褒められて、コミュニケーション能力が伸びたことに気付きました。レポートをもらった法政大学の先生に直接お礼を言いに行ったら、高校生で直接お礼を言いに来るのはすごいし、成果発表も素晴らしかったと言っただき、自分の成長を実感できました。

1年時のアントレで、初めてのフィールドワークで訪問先へ電話をかけるという経験をしました。その時にどのようにしてアポイントメントを取るのかということを学びました。このようなことは社会人になってからするものだと思っていたので、高校生のうちから経験できたのはとても良いことだと思います。アントレを通して地域社会とのつながりを感じることができました。



実際に自分たちで町の課題を考え、解決するためのプロジェクトを立ち上げたときに、行動することの大切さを学びました。ビビって何もしないよりは失敗をしてでも行動をした方が良いと思います。初めの一步を踏み出してしまえば意外と何ともなかったりします。自分だけでは勇気が出ないときは、伴走の先生や、友達に背中

を押してもらおうと意外と簡単に行動できることが多いです。そして、メンバーと協働する大切さも感じました。成果発表会のために班の発表スライドを作る際、一人でやろうとするとすごく大変なので、うまく役割分担をすることで負担が減るということに気づきました。いったん完成したスライドをさらに磨き上げてくれた人がいて、すごくありがたかったです。

アントレを通して学んだことは、たくさんの方と関わって色々な意見を得ることが大切だということです。自分だけでは考えることが限られるけど、たくさんの方と関わることで自分では思いつかない色々な意見を得ることができるからです。また成長したことは、保育園の2園交流会を考えて実施するまでは大人の方など周りの方々に任せてしまうことが多かったですが、2園交流会をする時には一から自分達で企画を考えて行動をすることができるようになりました。また、諦めない力もつきました。自分が達成したい目標があり、その目標が達成できなかったとしてもまた自分に合った方法を見つけて、諦めずに挑戦をするという力が、アントレを通して身についたことで、日常生活の中でも目標を諦めるということが少なくなりました。



3年間のアントレで成長したと思う点は2つあります。1つ目はゼロから企画を作り出す力です。2年次のプロジェクトでは、行動することが遅くなり、最初に予定していたことは別のものになりました。行動が遅いという失敗から生まれた結果ではあるけど、内容や当日の進行、準備まですべて自分たちでやったので、ゼロから企画を作り出す力がついたと思います。2つ目は、言語化能力です。前までは発表のときに単なる事実しか言えていない部分があったけど、アントレの活動を通して活動の背景や理由などを言葉にまとめることが回数を追うごとにできるようになりました。

【大学生との交流】

私は1年生の時に法政大学の学生さんと交流をしました。大学生は高校生と年が近いというのもあって、すごく仲良くなれました。話すときの距離感も近く、話題の内容なども近いものがあるので、大学生も高校生とあまり変わらないなという印象が最初がありました。でも実際にアントレの話をして、フィールドワークを一緒に行くと、「すごいな、大学生！」と。自分たちとはそんなに人生経験は変わらないはずなのに、ここまで違うのかと驚きました。私たちが交流した大学生の一人が既に友達と起業をしていると聞き、かっこいいなと思いました。とても良い刺激になりましたし、大学生の方に良い報告ができるようにという思いがモチベーションに繋がりました。2年生の時は大正大学の学生さんと交流をしました。そこでは自分のプロジェクトのプレゼンをして、フィードバックをもらいました。そのフィードバックが高校生相手ではもらえないような核心を突いた内容で、自分たちとは捉えている視点が違うなと感じました。自分もこんな大学生になれたら良いなと憧れました。



1年生のときの青学、法政の大学生との交流では、大学生が自分たちと活動した1回目のフィールドワークと東京研修での活動をまとめて資料にして自分たちに渡してくれました。その資料を見ると、要点がまとまっているだけでなく、実際の写真が載っていたりしてとても見やすく、自分たちが一度プロジェクトにつまずいたときにきちんと振り返る事ができる手助けになりました。さらにそれを活かし、活動ごとに振り返りの資料を作ったり、スライド発表に役立てたりすることが



できました。

2年生の大正大との交流では人生グラフを見せてもらいました。いろんなつまずきがあり、その乗り越え方を聞き、とてもためになりました。イベントで効果的に伝える方法を聞くと、大学

では発表の授業があり、その時に質問を投げかけたり写真を使ったりしたら効果的だったという情報をもらうことができ、とても役に立ちました。先生には聞きにくい、ぶっちゃけたところや大学生ならではの広い視野からの意見がとてもためになるので大学生と交流するときにはたくさん質問するのは大事だと感じました。

【アントレを将来へつなぐ】

アントレで吉賀町について深めていく中で、地方創生に興味を持ち、町づくりや地方自治についても勉強したいと思うようになりました。これからもっと深めたいことは、「吉賀町を30年後も維持させる、もしくは活気の溢れる町であり続けるためにはどうすればよいか」についてです。そのためには何が必要なのか、何をすればよいのかを大学で学びたいと思います。吉賀町をテーマに活動することで、自分が将来やりたいことがはっきりとしたので、大学へも明確な目標を持って進学できます。

進路については、以前から教育系に興味があり、2年次からテーマを変え、1年間吉賀で過ごして感じた地方と都会の教育の差について考えていこうと活動しました。その中で、自分は教育について全然知らないなあと感じる一方で、やっぱり教育系に進みたいという気持ちが強くなっていました。これからは更に知識を深めて、いずれは全国の高校がアントレ的な活動ができるようになったらいいと思っています。

私は3年間のアントレで、問題を解決するまでの流れに興味を持ちました。どの行動や選択が良かったのか、現在はどんな状況にあるのかなどを考えて行動をすることが楽しく、更に専門的に学びたいと思いました。また将来的にはどこかの企業で働きたいと思っているので、まずは、大学で企業の仕組みや流れなどを学ぶことができる経営学部や商学部に入り、今までで学んだことも活かしながら勉強したいと思います。



1年時のプロジェクトの目標「差別をなくす」、2、3年時の目標「校則への関心を高める」という2つに共通することは、人の意識改革です。様々な課題において人々の意識というのは課題の原因の根底にあるものであり、このような活動においてかなり難しいことであると感じました。歴史上人々の意識が改革される時に本が関わることが多く、本は人の意識改革にかなり関わっています。3年間のプロジェクトで意識改革という課題は一度も解決できなかったけれど、本にはそれが

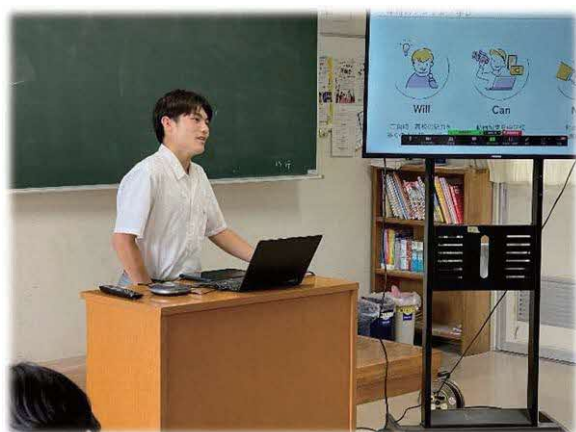
可能かもしれないと思いました。本は私の興味に近く、活動に関係なく大学で文学等を学ぶつもりです。この活動を通して大学で文学を学ぶ強い動機ができ、将来は本に関わる仕事をしたいという目標ができました。大学で人の意識について知り、それを仕事で活かすことができれば良いと思っています。

アントレを経て成長した部分は、様々なことを積極的に知ろうとする力でした。アントレを始めるまで様々なことに興味を持つことができず、知ろうとしなかったが、たくさんの人との交流を通して様々なものに出会ったことで、今ではあらゆるものに興味を持てるようになり、それについて知ろうと積極的に調べたりするようになりました。この力が伸びたことにより、将来の夢にも変化



ができました。それは、管理栄養士の事をより詳しく調べていくうちに臨床管理栄養士というものに出会い、そしてその「臨床」という部分に興味を持ち調べていくうちに、看護師に心惹かれるようになり、最終的に目指す職業となりました。

大学では、地域の様々な問題を探究して、そのための解決策や判断力、自分の意見を言葉で表現できるようになりたいです。また、積極的に人と関わり、他者とのコミュニケーション能力をより成長させて行きたいです。高校ではフィールドワーク先が吉賀町でしたが、大学では違う地域をフィールドとして活動し、様々な体験をしてさらに自分の力を伸ばしていきたいです。



2024年度 アントレ校内発表会

2024.12.12.(Thu)
@ 島根県立古賀高等学校

1・2年生の23プロジェクトが大集結！

アントレは未来を創る

これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そしてその需要（Needs）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。

今日は、大きな探究のサイクルでいうと【まとめ・表現】に当たります。しっかりと職業に向けて、プロジェクトについて語ってください。そして、2月の発表に向けて、深めたり改善したりすべき点を明らかにしていきましょう。

そして、お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、よりよい未来を一緒に創っていくために意見を出し合ひましょう！



本日のタイムテーブル

時間	内容
13:45 - 13:55	オープニング
13:55 - 14:50	グループセッション①
14:50 - 15:00	休憩
15:00 - 15:55	グループセッション②
15:55 - 16:10	学びのまとめワーク
16:10 - 16:25	講評・クロージング

グループセッションの進め方



発表プロジェクト一覧

学年・チーム	メンバー	テーマ別プロジェクト名	学年・チーム	メンバー	テーマ別プロジェクト名
1年-A	佐藤、栗原、深澤、清水、田中優	柿木地区	2年-G	小田原、内田雄	自然保護
1年-B	北上、松本、成田、山崎、中村	七日市地区	2年-H	清水、栗原、田中、山田	朝食レシピ開発
1年-C	折古、本田、右田、小倉、新田知	網倉地区	2年-I	岩崎、内田知、豊藤統、茅原	笑顔×健康
1年-D	江谷、河内、岡本、高山	町教委（六日市地区）	2年-J	廣藤、守田	多世代スポーツ
1年-E	橘、西田、遠見、田中真	鏡木地区	2年-K	永島、渡邊、高、藤本	商品開発
1年-F	新田隆、富安、浅尾、永田	よしかの里	2年-L	中山明、中山和	落花生
1年-G	三浦、田原、宮本、小藤	社会福祉協議会	2年-M	吉村	書道×多文化共生
2年-1	山本、中村雪	鏡木子ども	2年-N	中村夏	知りたい学びたい（金融）
2年-2	廣藤大、永見	スマホ講座	2年-O	横井	将棋の創作力
2年-3	村上、有田、藤田文、豊藤寛	子ども食堂+	2年-P	小田原	多文化共生
2年-4	谷崎、高久	六日市の良でを広める	2年-Q	藤田雄	あそび子ども
2年-5	谷重、佐古	古賀のゴミ捨て			

グループセッションスケジュール

時間	1年1組	1年2組	2年1組	2年2組	合併教室
13:55 - 14:06	1年-C 折古、本田、右田、小倉、新田知	1年-G 江谷、河内、岡本、高山	2年-2 廣藤大、永見	2年-16 藤田雄	2年-K 永島、渡邊、高、藤本
14:06 - 14:17	2年-14 横井	2年-6 小田原、内田雄	2年-1 山本、中村雪	2年-4 谷崎、高久	2年-13 中村夏
14:17 - 14:28	2年-7 清水、栗原、田中、山田	2年-15 小田原	2年-9 廣藤、守田	2年-12 吉村	2年-5 谷重、佐古
14:28 - 14:39	2年-11 中山明、中山和	2年-10 永島、渡邊、高、藤本	1年-9 井上、松本、成田、山崎、中村	2年-3 村上、有田、藤田文、豊藤寛	1年-F 新田隆、富安、浅尾、永田
14:39 - 14:50	1年-G 三浦、田原、宮本、小藤	1年-E 橘、西田、遠見、田中真	1年-A 佐藤、栗原、深澤、清水、田中優		

評価について

今日の発表は、次の3観点で評価していきます！
（3つの観点はレベルは、次ページのループリックを参照してください）



上の3観点で、良かったこと（素）・気づいたことや質問（青）などを書いて、発表後に渡してください。

ふせんの使い方



評価ループリック

ループリック	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	目指す力
探究の内容	・その探究テーマにした理由が読み取れない ・情報を収集できていない （探究のサイクルを全く理解できていない）	・その探究テーマにした理由が読み取れる ・情報を収集し、アクションも考えているが、本当にニーズがそこにあるかは微妙 （探究のサイクルを表面的に把握している）	・情報収集を複数行い、分析をしている ・ニーズが効果的にあり、誰かのためにアクションを実行している （探究のサイクルを理解している）	・情報収集を複数行い、客観的に分析をしている ・誰かのためにアクションを実行し、やり取りを繰り返している ・次の具体的なプランを提示している （探究のサイクルを本質的に理解している）	【思考力】
スライドの工夫	・情報が整理されていない ・文字ばかりでグラフや写真がない	・情報が整理されているが、グラフや写真などが使われていない	・情報が分かりやすく整理されている ・グラフや写真が効果的に使われている	・情報が分かりやすく整理されている ・文字の大きさやグラフや写真が効果的に使われている ・適度でないアニメーション等を使っている	【表現力】
発表者の伝え	・発表者が緊張やスクリーンの読み間違いをしている	・発表を見ようとしているが、スライドに書いてあることを聞かずに自分の話をする	・発表資料以外の情報も加えながら発表している ・聴衆の方を向いて一方向	・発表資料以外の情報も加え、ポイントを整理しながら発表している	【伝達力】

アントレは未来を創る...
TO BE CONTINUED...

←アンケートへのご協力を
よろしくお願いいたします！

アントレ校内発表会を通して（教職員・来場者の感想）

■発表内容・テーマ・発表形式など

- ・自分たちの住む吉賀町をよくしたいという思いが感じられた。
- ・失敗話が組み込まれているのがよかった、失敗を面白がり怖がらない学びが素敵。
- ・お客さんに楽しんでもらえた+子供や大人の笑顔だけではなく、地域のニーズを考えようとしているのがよい。
- ・日本全体の1位は大きすぎるけれども、まずは島根1位の取り組みを目指してみよう。そのためには、独自性やオリジナリティが大事。
- ・吉賀町を好きになって、繋がることを面白がり、爪痕を残すインパクトを！
- ・発表内でのよくある「役場に行く」も、情報やアドバイスをつかみに行っているのはただ行くだけとは違うのでよい
- ・高校生の積極性がある、役場の人もただの説明ではなく、アドバイスなど踏み込んだ話までしてくれるのではないだろうか、このような積極性を他の場面でも見せていけるとよい。

■生徒の様子など

- ・2年生の中で探究の『やるべきこと』が着実にできており、発表の構成もよいと感じる班があった。
- ・つまりきも含めて探究で通るべき道を通っている、プレゼンも工夫できていた。
- ・質疑応答では、質問する方も的確なものを質問していたし、答える方も内容についてしっかり説明していてよかった。
- ・3年生のアドバイスや質問も下級生のこれからの活動にとって良いものになったと思う。
- ・緊張した面持ちもありましたが、一生懸命伝えようとする姿は伝わってきました。
- ・1年生はグループでの発表ではあったけど、各自責任をもって役割分担をしていました。やはり探究活動にはグループ活動であっても自分事として関わる大切だと思います。
- ・発表後の付箋にはよかった点や改善点など貴重な意見が書いてあったようで、空き時間にじっくり読んでいる生徒がいて印象的でした。

■全体の感想・今後に向けて

- ・今やっている取り組みを自分の将来に活かしたいという、先に繋げていく意識も大事だと感じました。
- ・独自性やオリジナリティを磨いて、将来に活かせる力を身に付けてもらいたい。
- ・フィールドワークを何となく流すのではなく、そこでの気づきを1つ1つ振り返ることが大切なので、この細かい振り返りはぜひ継続してもらいたい。





島根県立吉賀高等学校



令和6年度

アントレプレナーシップ 成果発表会 教育



日時

2025年

3月17日(月)

12:15 ~ 15:10

会場

吉賀高校

私たち吉高生が
アントレの経験から
学んだことを
熱く語ります！

ご来場お待ち
しています！



お問い合わせ先：TEL 0856-78-0029 吉賀高等学校

イラスト/吉賀高校美術部 1年 小倉 昂汰

アントレ成果発表会を通して

■生徒の感想（1年生）

- ・身近な課題を見つけることが意外と難しいことがわかりました。また、課題を見つけてもその解決のための手段を模索し続けることも大変でした。いろいろな失敗や後悔もありましたが、アントレを通して広い視野を持つことの大切さがわかったような気がします。2年生になっても自分の意見に責任をもってアントレを進めていきたいと思います。



- ・発表するときに原稿通りに読もうとしすぎて詰まるところがありました。この反省から原稿には簡単に説明するところだけを記入し、スライドに書いてあることを聞いている人にその場で説明するような発表をしたいと思います。

- ・先輩のプロジェクトを引き継いでやっているアントレが印象的でした。自分たちもイベントを企画した際、人数が多かったり少なかったりして困ったことがあったのですが、先輩方はあえて定員を絞ることで自分たちのプロジェクトを進めやすい環境を作っておられました。今後のアントレ活動でも工夫しながらやっていきたいと思います。



- ・スライドについて他の人の発表から学んだことは一枚のシートにあまり文章を詰め込まず、コンパクトにまとめることです。自分でも意識したつもりですが、どうしても説明が長くなって逆に見えづらくなってしまいました。インパクトのあるフォントや囲みをうまく使いながら自分の伝えたいことをしっかり伝えられるよう工夫しようと思います。

- ・あまり緊張せずに話すことができ、聞き手にとってわかりやすいように伝えることができたように思います。自分たちのグループはデータや分析を発表に取り入れることで、「わ

かりやすかった」というコメントをもらうことができたけど、グループのメンバーどうしの発表が重なってしまったので、もう少し自分なりの分析結果や感想を伝えた方がいいと感じました。



■生徒の感想（２年生）

- ・高齢者向けに紙コップの神経衰弱など、相手の視点に立ったイベントの企画・運営については評価してもらえて良かったです。高齢者の方に協力をお願いする機会が多かったのですが、安全性などは大人の方と事前に打ち合わせで確認するようにしていました。また、高齢者といっても幅広い年齢層があるというアドバイスをもらったので、多様なニーズをしっかり調べて計画や実行できるようにしていきたいです。



- ・講評で、ある先生が「聞く者には意見を持つ責任がある」と言われたのが印象に残りました。他の人の発表を聞いた時も「よく調べているな」と思ったり、「工夫しているな」と思ったりしたことがあったのですが、いざ感想を求められてもその思いを発言することができませんでした。意見を持つだけでなく、それを伝えることも大切だということがわかりました。

- ・フィールドワークについて、ただ回数を重ねるだけではなく課題点を洗い出し、工夫しながら進める班の活動がすごいと思いました。自分たちの活動でも「ふり返し」は大切だと思っても、反省を次に繋げることが難しかったです。やはり、計画的にアントレを進めることは内容をよくするためにも大切だと感じました。



- ・自分はまだ進路が確定していないので、アントレと進路のつながりを意識することが難しいと感じました。しかし、進路の方向性と同一アントレの活動内容だとフィールドワークももっと積極的に取り組めると思うし、場合によっては関係者に進路の相談ができる機会もあるかもしれません。３年生でのアントレ活動の時間は短いので、何とか将来につながる活動をしたいと思いました。

■教職員の感想

- ・１年生の発表を聞き、高大協働研究が生徒たちにとってアントレの方向性を決めたり、内容を深めたりするよい機会になっていると感じました。大学生交流は必要だと思いますし、そのあり方もいい形で発展していけばいいなと感じました。また、東京に限らず社会人の考えに触れる機会をなるべく取り入れることで生徒の広い視野の獲得につながると思います。

- ・午後のブースごとの代表者発表はクオリティーが高く、他の生徒にも刺激があり良かった。ただし、同じグループ探究の発表が複数あるところが気になった。代表者の決め方については各ブースからの意見を集約し、バランスを取った方がいいように感じた。



- ・行動した事実のみを簡略的に示した紙芝居風のような発表もありました。もう少し動機や内容、結果等について具体的な表現（言語化）が欲しいところです。また、吉賀町をフィールドにこの町の未来をどう築いていくか、議会や役場と真剣に協議することをアントレに組み込んでみるのもいいかもしれません。

- ・事前の準備もあってオンライン形式の発表会がスムーズに運営されていたように思います。このアントレは本校の魅力化の根幹に関わることなので令和8年度に向けてしっかり議論・協議していきましょう。

■来場者の感想

- ・昨年に続き、朝から参加させていただきました。（午後代表者発表もちろんよいのですが、午前中にいろいろな生徒のみなさんの活動・発表を見るのがすごく楽しみだし、自分の勉強になっています。）吉賀高校の生徒のみなさんの活動のすばらしさは、チャレンジを繰り返していることです。それも、ただ繰り返すだけでなく、「うまくいったこと」、「よりよくしていくための改善点」を考え、分析し、自分の気づきを言葉にして、チャレンジの質を高めていっているところだと思います。地域の方をはじめ、関係する人たちの話をよく聞いて、思いを寄せながら工夫を重ねる吉高生の姿から、地域や社会とのよりよい関わりの有り様を教えてもらうことができます。自分のやりたいと考えたアクションが自分の理想と考える地域や社会の実現にどうつながっているのかということについて、みなさんがどう振り返り、言葉にしていくのか楽しみです。



（島根県教育委員会教育指導課 佐々木企画幹）

- ・代表発表だけの参加であったが同じ活動からの報告者が重なっていることが多かったので、結局、この一年、全体としてどういう活動が行われていたのかを把握することはできなかった。同じ活動からの報告が多く、それぞれがよくできていたことを考えると、「よくできる」高校生の集まった班が「成果を出し」、結果として代表として選ばれたのだろうと思われる。班の活動について個々で発表をさせるのは、個々の生徒が活動の言語化に挑むという意味で理解できるが、成果発表会として考えると、代表を選ぶことに意味があるとは思えない。班の活動の成果発表の場が担保されないからである。町の人にしろ大学生にしろ、班の活動には協力したが、個々の生徒たち（のプレゼン努力）に寄り添ったわけではない。

成果発表会のあり方としては、体育館でそれぞれの班がプレゼンをし、それを複数回繰り返すという数年前のやり方のほうが、会場として活気があったし、班の雰囲気把握できたように思う。代表の生徒の発表は、前述したようによくできていた。発表技術としてのクオリティがあがってきたのであれば、次は内容のクオリティを上げてほしい。全体として問題に対する「原因」の掘り下げが甘く、当を得ていないものが多かった。高校生の社会とつながる活動として考えれば、たとえば放課後サクラマスの活動がボランティア頼みになる話は、ボランティアの人が増えたからよかったという結論ではなくて、ケアワーカーの低賃金問題とそれに由来する人手不足という社会問題であり、公共や政治経済の学習課題として展開可能である。同様に、障がい者の作業所の賃金がどういう理屈でそうになっているのか、なぜ東京より吉賀町のほうが賃金が高いのかを理解することは、「財」のあり方について学ぶ非常によい入り口であり、吉賀町を Commons の観点から評価しなおす材料になるはずだ。「原因」を表層的に見繕って「解決」することは、たいして勉強にならない。高校生のプレゼンをもとに問題を掘り下げ、教科の内容が充実していくような連環を、ぜひ、高校の先生たちには準備してほしい。(法政大学 寺崎教授)

- ・ 吉賀校生の皆さんは「毎年とんでもないことをしている」ということを自覚してください。私は毎年全国の高校生や大学生と多く関わりますが、みなさんほど「実践的」で「実戦的」な学生に出会える機会は滅多にありません。

「実践的」というのは、机上の空論に収まっていない点です。実地調査をして、現地の人の中に飛び込んで何かする。それだけにとどまらず、それを分析した上で、改善して実施する。問題が起こればそれも分析し、代案を考える。それをまとめて、発表まで持ってくる。世の大半の学生は「何をすれば良いかわかりません」「できませんでした」で終わりにしてしまうのではないのでしょうか。みなさんの取り組みどれもが、学校の授業で問題に答えるだけの学生ではできない芸当です。

そしてそれこそが「実戦的」なのです。テストや受験なら、できない問題は「×がついて減点」で終わりですが、実際の社会ではそれでは終わりません。それがダメになることで、何人もの生活が、もしかしたら人の命が失われる場合もあるのです。「できませんでした」ではなく、その現実を受け入れてできることを探す。そしてなんとしてでも形にするという力は、実際の社会で戦うために求められている力そのもののなのです。

例年と比較しても、今年は特に「聴こう」とする姿勢が強い年だと感じました。様々な人の困りごとへの調査に力を入れており、どんな場面でもデータを取ることに力を入れていました。自分の立てた仮説があっても、実際の声によって柔軟に対応し、解決策を模索する姿勢は素晴らしいと感じました。発表資料も綺麗にまとめられており、聞き手としても楽しんで理解することができました。

(LUCK 株式会社 小川さん)



柿木地区

1年Aチーム

田中優仁・清水智也・須藤来夢・栗原雫・佐藤咲和

柿木地区を選んだ理由

- ・子供と関わりたい
- ・イベントに参加したい
- ・子供と関わって苦手を克服したい
- ・地域の方と関わりたい
- ・いろいろな行事があった

8月 東京の大学生とのFW

聞いた人...柿木公民館の河野さんと円山さん

聞いたこと...地域の課題や柿木公民館で行っている活動について



<地域の課題>

地域の行事への参加人数が少ない

<柿木公民館で行っている活動>

- ・あったかフェスティバル・防災活動
 - ・プレーパーク・暖炉計画
 - ・ぐるぐる食堂
- などを知ることが出来た

柿木地区の課題

- ・イベントに参加する小中高生が少ない
- ・ダンスや音楽イベントする機会がない

10月 東京の大学生とのFW(東京研修)

町田市町田市役所

地域活動サポートオフィス

- 杉山久美子さん
- ・東京にある町田の魅力やイベント
 - ・音楽イベントをするにあたってのアドバイス
 - ・ポスターづくりのコツ
 - ・飲食提供をするときの注意点
 - ・企画のたて方

円山さんへのインタビューFW

柿木秋キャンプは開催されない

→プレーパークやぐるぐる食堂に行って柿木地区を対象とした企画の立て方を学ぶ

あったかフェスティバルは開催される

→あったかフェスティバルの参加人数を増やす

→来場人数は現状の数で充分

あったかフェスティバルのニーズ

若い人～高齢者、多種多様な人たちに来てほしい

12月 3年生とのBBQ

3年の森川里海の授業で、円山さんと一緒に準備から片付けまで行い、BBQの練習をした

反省点

- ・調味料を忘れていた
 - ・調味料を持ってくる
 - ・役割を決めていなかった
 - ・役割を決めておく
- 調味料あったほうが絶対もっとおいしい → 時間が平等になり不満がなくなる
- 肉を焼く、皿準備など 動いている人と暇な人の差があった

自分たちチームの仮説

現状:300人

but

人数より幅広い年齢層が欲しい

あったかフェスティバルでの企画を工夫する

来場者の多様性が広がるのでは？

自分たちの仮説

現状中高生の参加が少ないので、
中高生が好きそうな企画を開いたら、
柿木地区イベントへの中高生の
来場者数が増えるのではないかな？

あったかフェスティバルの 計画

- 1 音楽イベント 吉賀高校の音楽部を呼ぶ
- 2 室内イベント 折り紙やボール遊び
- 3 食事提供 BBQを提供する

しかし…

BBQは食中毒の危険性があったり、音楽イベントは練習期間がなくてできなくなった

↓
室内イベントをすることになった

室内イベントの詳しい内容

- 1 折り紙、工作コーナー、プラ版

↳小学生や中学生対象 いくつかの見本を用意して一緒に折る

- 2 的あて

↳景品はお菓子 斜め、縦、横どれかが3つ揃えばお菓子一個
対象は小、中、高生

あったかフェスティバル

準備

- ・会議に2回参加した
- ・あったかフェスティバルの企画の準備



当日

- ・的あて
- ・プラバン作成



あったかフェスティバル

- ・意外と人がブースに来なかった
- ・やってくれた子は楽しそうだった
- ・最初は来てくれなかったけど、呼んだら来てくれた
- ・いろいろな人と話ができよかった



成長したこと

- ・地域の人と話すことによってコミュニケーション能力があがった
- ・発表の仕方や、スライドのみやすさを意識できた

楽しかったこと・嬉しかったこと

- ・大学生交流してたくさん話せたこと
- ・BBQでお肉を食べたこと
- ・ぐるぐる食堂のお菓子の販売を手伝ったこと

アントレでお世話になった方々

- | | |
|-----------------------|----------|
| 柿木公民館 | 町田市役所 |
| ・河野 洋司さん | ・杉山久美子さん |
| ・円山 洋輔さん | |
| ・川本 真さん | |
| ・あったかフェスティバル実行委員会の皆さん | |
| ・大学生 | |

【七日市公民館】

1年Bチーム

メンバー【井上愛深 松本鈴華 山崎凜汰朗 成田帆高】

【選んだきっかけ】

交流センターやイベントでお世話になった七日市の皆さんに
恩返ししたい



【現状】

公民館に来る若い人が少ない



もっと増やしたい!!



【仮説】

課題

少子高齢化、イベントの参加者の固定化



仮説

こども食堂などを通していろいろな人と交流することで地域が
活性化するのではないか

【プロジェクト案】

【高校生でこども食堂を企画して、運営をする】

内容

- ・自分たちでこども食堂を開催し、地域の方々と交流を深める
- ・高校生と参加者が料理を作ったり、待っている間に子どもが遊んだりできるような空間を作る

フィールドワーク【8月】

大学生の方々と七日市公民館

○七日市公民館で聞いたこと

- ・どこから費用が出るのか
- ・申し込みについて
- ・参加者が固定化している
- ・いろいろなイベントを開催している
- ・イベントの開催を参加者の要望で行うことがある



フィールドワーク【10月】

東京研修

大学生と一緒にNPO法人むすびえの方々にお話を伺った
(全国の子ども食堂での活動内容、こども食堂の役割など)



【ボランティア参加】

○2024年11月9日 七カまつり

- ・ミニゲームができるブースを担当した
- ・イベントの最後には餅まき、お菓子まきをした



○2024年12月21日 なないろ食堂

- ・料理を作るお手伝いや配膳をした
- ・参加してくださった方々に食べたい物のアンケートを実施した



↳ ハンバーグとフルーツポンチが多かったので試作することにした

【試作してみた】

○わかったこと

- ・味も見た目も良いという評価が多かった
- ・食べた人全員がこの料理を作りたいと思った



【イベントに参加してわかったこと】

- ・七日市ではイベントに参加する人の年代が固定化している
- ・イベント開催には参加者の要望を大切にしている
- ・すれ違った人にも声をかけ、地域全体で楽しく開催している



【学んだこと】

- ・七力祭りにスタッフとして参加したとき、準備や運営するのが意外と大変だった
 - スタッフの人数が増えると良いと思った
- ・ゲームの担当をする中でいろいろな人と関わって楽しかった
 - 地域の人は明るく優しい人が多いと思った



【失敗したこと】

- ・一つのイベントに対し、グループ全員での参加ができていない
 - ↳部活や用事で全員での参加ができなかった
- ・自分たちでイベントが開催できなかった
 - ↳計画性や積極性が足りていなかった



【成長したこと】

- ・年代によって関わり方を工夫した
 - ↳小さい子どもには目の高さを合わせる
 - 高齢の方にはゆっくりはっきりと話しかける
- ・参加者の願いを聞き、実行できた
 - ↳ゲームを『もう一回やりたい』や、子ども食堂で『ご飯の量を減らしてほしい』などの要望に対応できた



【もっと深めたいこと】

- ・スタッフとして参加したときにもっと盛り上げる方法
 - ・参加者が多いイベントを考えること
 - ・なにがあったら楽しんでもらえるか
- 3月の七日市花見会にボランティアスタッフとして参加する



【振り返り】

- ・計画性や積極性を高めるべきだと感じた
- ・イベントにスタッフ側として参加することが今まであまりなかったので初めはわからないことが多かった
 - 実際に参加するなど、行動することが大切だと気づいた
- ・質問したことや、聞いたことはメモをする方がスライドにまとめやすい。メモの習慣は大切だと気づいた



【お世話になった方々】

七日市公民館 茅原美里様

NPO法人全国こども食堂支援センター むすびえ 小松真弓様 川添華子様

法政大学 吉井美咲様 井原琉南様 田中啓大様



朝倉公民館

1年Cチーム

本田結愛・石田大和・小倉昂汰・新田知輝・根占妃菜

きっかけ

- ・ イベントが多い
- ・ 幅広い年代の方が関わっている
- ・ 朝倉と関わりをもっと持ちたい!!
- ・ もっと朝倉を盛り上げたい!!

8月 FW 川遊び

東京の大学生と朝倉の子どもたち

- ・ 人が多い→場が明るい
- ・ 子どもは吉賀の未来
- ・ 人を動かすことの大変さ



10月 FW 東京

「まちづくり会社ドラマチック」

【代表社員】今村ひろゆきさん

学び

①イベントのコツ

世代を絞る、協力を募る

③お金の集め方

自分で出す→参加料
→周りから集める

②準備期間

最低3ヶ月前にスケジュール作成

④活動の中での課題

予想より人が少なかった
→チラシのデザインを工夫する

イベントのゴール

目標：地域の人を楽しんでいる機会を増やすことで
地域がもりあがる

①まず子どもたち

②大人も巻き込む

→地域全体

→放課後サクラマス/公民館の利用



放課後サクラマスに参加

◎11/18 バウンスボール

◎12/16 プチ運動会

(ハンカチ落とし・玉入れ・しっぽ取り)



仮説

高校生がイベントを開催することで
継続的に朝倉を盛り上げる第一歩に
なる!!

クリスマス会を企画

場所：朝倉小 調理室+工作室

時間：終業式後 昼～2時or3時

参加者：小学生、大人

内容：①プチゲーム (30分)

↓
②ケーキ作り (1時間30分)

↓
③プレゼント交換 (30分)

日付	実施日
11/18 (月)	チラシ+アンケート完 成
11/25 (月)	チラシ+アンケート完 成配布
12/2(月)	アンケート締め切り
12/25 (水)	当日



Merry Christmas
12月25日(水)
場所: 朝倉中学校
時間: 14:30~

ミニゲーム
わらわき作り
プレゼント交換
(\$300以内の
文房具が主)

仮装してさあ、
思いこぞ
あそぼう!



QRコードでの参加申込も可能です

きりとり
クリスマス会参加申込表
参加する場合は、下記の必要事項を記入し、学校に提出してください
食物アレルギー等がある場合はアレルギーの欄に記入してください

姓	氏名	食物アレルギー
学号	氏名	食物アレルギー
姓 <th>氏名</th> <th>食物アレルギー</th>	氏名	食物アレルギー
姓 <td>氏名</td> <td>食物アレルギー</td>	氏名	食物アレルギー

保護者氏名
姓 氏名
姓 氏名
姓 氏名

学年
学年
学年

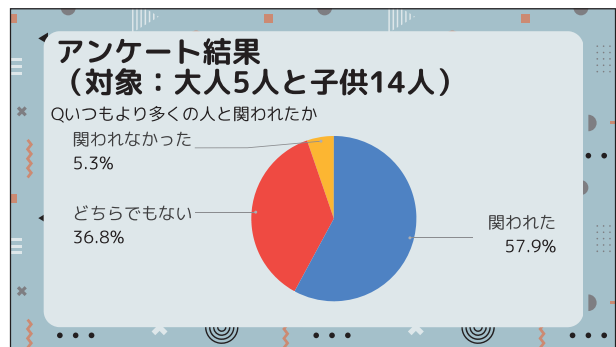
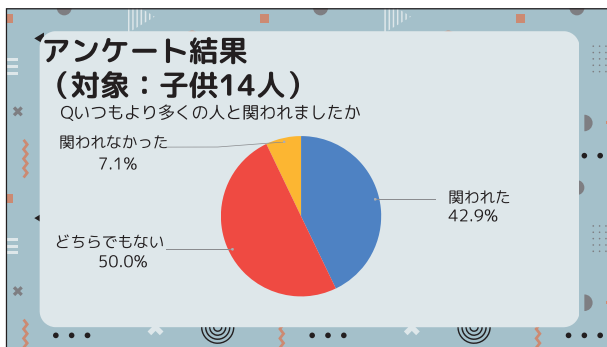
※参加費は別途お支払いください。※参加費は別途お支払いください。※参加費は別途お支払いください。
※参加費は別途お支払いください。※参加費は別途お支払いください。※参加費は別途お支払いください。
※参加費は別途お支払いください。※参加費は別途お支払いください。※参加費は別途お支払いください。

◎クリスマス会
12月25日
タイムテーブル
とその詳細

しっかり詳しいところ
まで読めることができた



時間	内容	場所	役割
12:30	(公民館へ) 小学校移動		
12:45	到着		
13:00	準備		
13:30	(開始) 説明	体育館	石田
13:45	ケイドロ 5分×3		新田/小倉
14:05	終了		
14:10	しっぽ取り 3セット		新田/小倉
14:25	終了		
14:30	NGワードゲーム (各班で)	家庭科室	新田/小倉
14:50	ケーキデコレーション (各班で)		横占
15:15	片付け		
15:30	プレゼント交換		本田



仮説は検証できたか

アンケート結果から
子どもと大人を含めれば
いつもより関わった人が50%を超えた!!
だから朝倉を盛り上げる第一歩となった!!

活動を通して伸ばせた力

- コミュニケーション能力
- 人前で話す力
- 計画力
- 協力して活動を行う力
- 積極的に意見を言う力

活動を通して学んだこと

自分たちで企画の準備を逆算して計画することが大切

地域の方とのコミュニケーションの取り方
・明るく笑顔で会話する
・身振り手振りを多くした

お世話になった方々

[まちづくり会社ドラマチック]
代表社員 今村 ひろゆきさん

[朝倉公民館]
能美さん 斎藤さん 対馬さん

[青山学院大学]
佐藤 全さん 宮村 歩さん
柳川 恵祐さん

[吉賀町教育委員会]
坂田さん

大変お世話になりました
ありがとうございました

放課後サクラマス教室

アントレ 1年Dチーム

河内 愛純 江谷 羽絆 岡本 新大 鳥山 蓮斗



選んだきっかけ

イベント開催をしたかったから
将来の夢に近かったから

高大協働研究 in吉賀



〈フィールドワーク〉
社会教育についてのお話
放課後サクラマス教室の現状

お話を聞いてわかったこと

良い点

大人と子どもの関わりが増える
遊びの場が提供できる

課題

参加してくれる地域の大人、中高生が少ない
児童の活動の自由度が低い

10月1日 放課後サクラマス教室 に参加



紙飛行機・ブーメラン作りのお手伝い
→大人の手が足りていないことを実感

〈活動に参加して、見えた課題〉

参加してくれる地域の大人、中高生が少ない



活動の自由度が低い

集客、マーケティングについて知りたい！

マーケティングとは...

商品を効率的に売するための仕組みのこと

10月3日 東京フィールドワーク



東京都渋谷区に行き、散策



午後に株式会社ベーシックさんのもとへ、
B to B(企業 対 企業)の集客の仕方や
宣伝方法などを聞きに行きました。

東京研修で得たこと

- ・集客の他にブランディングがある
- ・本来の目的を失わないことが大切
- ・参加者の意見を聞く
- ・目的 状態ゴールのサイクルを回す

ブランディングとは...
共感や信頼
などを通して
顧客にとっての
価値を高めていく
ことです



仮説

状態ゴール

(知ってもらう、来てもらうこと)
を目標とした集客・ブランディングをする



継続的に中学生より上の世代が集まるのでは？



集客方法

バス停、温泉、
スーパー、飲食店など

- ・人の目に入りやすいところにポスターを貼る
- ・六日市中学校の生徒にチラシを配る
- ・町内のNPO法人、たんぽぽの会にお願いをする



1月28日 放課後サクラマス教室 〈巨大すごろく〉



すごろくのマス目に昔遊びやクイズ、
チームの仲が深まる活動を入れた！

1月のイベントの結果

- ・計画的に活動できた
- ・下表の通り、今回の集客方法により放課後サクラマス教室に参加してくれた大人の人数が13人増えた
- ・活動を知ってもらうきっかけになった

放課後サクラマス教室に参加する大人の人数

	公民館・教育委員会・学童	その他(NPO・中学生)
これまで 2024.4月～12月の平均(人)	約8人	0人
今回 2025.1月(人)	8人	13人

1月のイベントの反省点

- ・児童への指示があまり通らなかった
 - 小道具を使う時間の指示
 - 児童が待つ時間が少なくなるような工夫
 - はっきりとした指示のマニュアルがなかった
- ・児童と地域の方の関わりが少なかった
 - 地域の方がもっと楽しめる内容にする
 - 地域の人に活動を仕切ってもらう

活動全体を通しての学びや成長

- ・人を集めるために自分たちから行動し、発信することを学んだ
- ・子どもとコミュニケーションができるようになった
- ・大人と丁寧な言葉遣いでやり取りができるようになった
- ・地域の大人が継続的に来ることができるよう働きかけが重要だと気付いた

協力してくださった方々

- ・吉賀町教育委員会 坂田哲朗 様
- ・六日市公民館 清水愛美 様
- ・株式会社basic 川前志穂子 様 菊池貴行 様
大谷桃子 様 藤田てるみ 様
- ・株式会社TANREN 佐藤勝彦 様
- ・桜美林大学 前園悠理 様 藤田あまね 様
- ・たんぽぽの会の皆様
- ・地域の皆様

ご協力ありがとうございました！



蔵木放課後児童クラブ



1年Eチーム

田中勇仁 西田阿禾
橘芽空見 蓮見美々子



きっかけ



- ・子どもが好きだから
- ・体を動かすことが好きだから
- ・子どもとの関わり方を知りたい
- ・保育士に興味があるから



最初のプロジェクト案



蔵木小学校の子と遊ぶ



小学生を知るために、仲良くなって高校生を
知ってもらう



FW 1 回目



8月23日 in放課後児童クラブ
大学生交流

- ・クラブの概要…助成金で成り立っている
- ・クラブの現状…スタッフが少ない
- ・今後の目標…地域の人に知ってもらう



FW 2 回目



10月3日 in新宿区社会福祉協議会
大学生交流

- ・人の集め方…色々な人に声をかける
- ・イベントの開き方…お互いを知ってもらう
- ・ゲームをする
- ・吉賀に帰ってすること…学童の人と話し合う



プロジェクト案2



蔵木小学校の子と遊ぶ



小学生のことを知るために、仲良くなって高校生を
知ってもらう

→児童クラブを地域の人に知ってもらう



イベントを開いたら

地域の人に知ってもらえる

→お互いを知るゲームをする

お金のかからないイベントを開く

→学童のイベントが増える



FW 3 回目



10月30日 in放課後児童クラブ
朋澤 公香さん（運営責任者）

- ・ニーズの再確認…高校生と遊んでほしい
- ・アンケート実施…何をして遊びたいか
- 何をさせてあげたいか



アンケート結果（子供29人回答）

何をして遊びたいか

- ・ドッジボール
- ・おにごっこ
- ・かくれんぼ
- ・ミサンガ作り
- ・バレーボール
- ・怖い話を読む

何をしてほしいか

- ・かくれんぼの鬼
- ・一緒に遊ぶ
- ・鬼ごっこ
- ・ドッジボール
- ・お菓子を持ってくる
- ・1日支援員

アンケート結果（大人3人回答）

どんなことをさせてあげたいか

- ・学校行事に地域の人と参加
- ・地域の特産品や季節のもので工作や料理
- ・学童のパネル作り

何をしてほしいか

- ・自分たちが遊んで楽しかったことを発表
- ・体を動かすゲーム
- ・詳しい自己紹介
- ・小学生のサポート

FW 4 回目

- 12月13日 in蔵木小学校
1日支援員…アンケート結果から
- ・小学生の勉強のサポート
 - ・給食と一緒に食べる



FW 5 回目

蔵木放課後児童クラブのみなさんへ
みんなと遊んで楽しもう！
アントレがこれからイベントを開くときのために、小学生のことをもっと知りたいので、交流できるイベントを開こうと思っています。スタッフの方もぜひ参加してください！
日時：12月16日（月）15：30～17：00
場所：児童クラブ
すること：自己紹介、かくれんぼ、ドッジボール（雪が降れば雪合戦）
持ち物：園のいも、飲み物
古崎南校アントレ組
田中 麗に 西田 莉希 横 登空院 蓮見 美々



プロジェクトについて

- ・お金のかからないイベントを企画する
→子供に楽しんでもらう
- ・地域の人にクラブのことを知ってもらう
→地域の人と交流するイベントを開く

1 年間の振り返り

- ・子どもとの関わり方を知った
- ・計画を立てられるようになった



今後したいこと

- ・子どもと地域の人が関わるイベントをする
- ・蔵木のイベントに参加する

お世話になった方

蔵木放課後児童クラブの皆さん
新宿区社会福祉協議会の菊地希さん山野咲さん
法政大学の大学生の椎名菜月さん青木葉奈さん
長谷川侑香さん小村宥介さん
ありがとうございました！

よしかの里 ～コッペパン販売大作戦～

1年【Fチーム】浅尾周穂 永田太陽 新田陽生 富安神愛



このテーマに興味・関心をもったきっかけ

- ・よしかの里の従業員さんの話を聞き、福祉に興味が出たから
- ・よしかの里が、就労支援をされていると聞いたことがあるが、どのようなことをしているのか興味があったから



8月：東京の大学生との FW

高大協働研究

桜美林大学：大学生の二人と活動

「よしかの里」に訪問（内井さん・谷川さん）

1. 気になる・疑問に思ったこと質問
2. 建物内の見学

学んだことをまとめて発表

桜美林大学
J. F. Oberlin University



よしかの里 で分かったこと

- △工賃が少ない
- △知名度があまり高くない
- △宣伝がうまくできていない
- コッペパンがふわふわでおいしい
- 遠くからパンを買いに来るお客さんがいる

パンを作っておられる方へのインタビュー



- ・パンを作る上での思い
お客様に美味しいと言ってもらえるように上手に作りたい。
- ・パンを作る上で大変なこと
成形が難しい、見た目良く作ることが難しい。

目的：よしかの里で働く方の工賃 UP

実際に行ったPJ

「吉賀高校に来てもらう」



「校内でコッペパンの販売を行う」



目的

売上UPによってよしかの里で働く方の工賃 UP

9月から行っている活動

毎週水曜日：吉賀高校でよしかの里のコッペパン販売



10月：東京の大学生と FW

東京研修

「新宿福祉作業所エスポワール」に訪問（宮部さん・永林さん）

桜美林大学：大学生の二人と活動

1. よしかの里で聞いたこと、気になったこと
2. 建物内の見学

東京観光



新宿福祉作業所エスポワールで分かったこと

- ・モチベーション維持に作業のマンネリ化防止が大切
- ・商品は同じクオリティで販売が大切
→一般的な商品として見てもらうため
- ・ブランディングが大切
- ・よしかの里との違い(CSR・売上・工賃)

**「よしかの里」を吉賀町の人からの
口コミで伝える工夫をする**

校内販売の売上

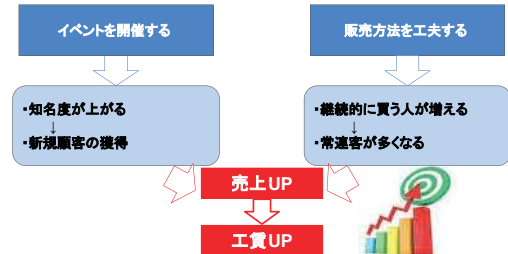


販売してからの気づき

- ・日によって売れ行きが変わる
- ・条件によってパンの売上が変わるので分析することが大切
- ・生徒は「甘い系」先生は「おかず系」のパンを多く購入する傾向
- ・イベントをすることで販売実績が上がる
- ・パンの魅力を伝えるのが難しい

仮説

校内で売上をUPさせるには？



実施したPJ

毎週水曜日：吉賀高校でコッパン販売継続（イベントを実施）

例年冬場はよしかの里の来店客が少なくなる傾向があるため

さらに実施したPJ

目的：売上・知名度UP

2月1日(土)：キヌヤ七日市店でパン販売

200個の売上を目標に頑張る

イベント

2月1日(土)
キヌヤ七日市店でよしかの里の方
と共に対面販売実施

目標→200個販売

結果→255個完売
71,350円売上



成長したこと

- ・町に貼られたイベントポスターの内容が
企画の参考になるのかと考えるようになった（広い視野）
- ・売上をまとめて誰にでもわかりやすい表ができた(表現力)
- ・自分から行動してパンを買いに来てもらうようにできた
(積極性)
- ・事業所の方との関わり方が上手くなった
(コミュニケーション力)

アントレでお世話になった方々

桜美林大学	新宿福祉作業所	よしかの里
高木宗一郎さん	宮部雅敬さん	向井幹男さん
齋藤大輝さん	水林菜穂子さん	谷川僚輔さん
		河内隆裕さん

ご協力ありがとうございました。

子育てサロン

1年 Gチーム

小藤輝流 田原来弥 三浦音楽 宮本紗和

このPJを選んだ理由

- ・社会福祉協議会で子育てについて話を聞いて詳しく知りたいと思ったから
- ・吉賀町の子育てサロンを広めたいと思ったから
- ・子どもと関わってみたかったから



1回目のFW

社会福祉協議会

福祉全体（高齢者、障害者、子ども）の課題を聞いてさくらんぼクラブに興味を持った



子どもに焦点を当てて、子育てサロンをテーマに活動していく



2回目FW

東京都板橋区 森のサロン

板橋区に委託を受けた東京家政大学
0～3歳児の子供を持つ家庭を対象とした
子育てひろば



2回目のFWで学んだこと

森のサロン

大学生ボランティアの減少という
サロンの課題や
職員も心を開いて、気軽に話さなど
サロンに来る人達との関わり方を聞いた

☆ボランティアの集め方
→ホームページを使用する
ビラ配りを行う など



3,4回目のFW

さくらんぼクラブ

吉賀町七日市で毎月1回行う
子育てサロン
ボランティアさんの手作りの
お菓子が魅力
親同士で情報交換ができる



3,4回目のFWで学んだこと

さくらんぼクラブ

利用者とボランティアの人数が
少ない
利用する子どもは0才児が多くでき
る遊びが少ない



利用者とボランティア募集の
ポスターを作る



東京と吉賀のちがい

東京		吉賀	
利用者数	1日10～30組	利用者数	多いときで10組
利用時間	am10～12 pm 13～16	利用時間	am10～12
利用できる日	平日	利用できる日	毎月1回 金曜日
職員数	6人（普段は3人）	ボランティア数	5人

仮説

サロンの利用者と
ボランティアさんの減少が課題



ポスターを作ることで、より多くの人に
サロンについて知ってもらうことができる

ポスター



検証方法

1月の子育てサロンに行き、
来た親子の人数を数える



3月の子育てサロンに参加して、
来た人数の増減を確認する



検証

1月のさくらんぼクラブの利用者数
8組



ボランティアさんや利用者の方の
呼びかけで初めて利用する方もいた

FWを通して分かったこと

- ・子育てサロンは子供の居場所だけでなく、
保護者さんのケアや交流の場所であること
- ・余裕を持って計画を立て、行動することが
必要なこと
- ・コミュニケーション能力が必要なこと



成長したこと

- ・FW先でのコミュニケーションの取り方
⇒メモを取りながら、質問を考えることができるようになった
- ・小さい子とのふれあい方
⇒自分から話しかけに行くことができるようになった
- ・見やすいスライドを作り方が分かった
⇒必要なことだけスライドに書いて、補足事項を口頭で
伝えるように心がけた

活動で失敗したこと

- ・最初はFWで質問が出来なかった
⇒今の私達に必要な質問を考えながら、相手の話を聞くようにした
- ・最初のポスターにサロンの魅力が書いていなかった
⇒ICT支援員の方にアドバイスをもらったことで、
サロンの魅力をポスターに載せるようにした

お世話になった方々

吉賀町社会福祉協議会
アスノワ
森のサロン
七日市子育てサロン
法政大学

包楽案さん・斎藤忠春さん
村田恵理子さん・中島咲さん
清水幸さん
吉川さん・川淵さん
奥田真生さん・渋谷真優さん
新堀明音さん

ご協力ありがとうございました

蔵木と子ども

2-2 中村雪羽 山本来輝

will

一年次にやったアントレのテーマを引き
継ぎたいと思った



蔵木の子どもたちとの関係を深めたい

自分たちのwillにたどりつくまで
プロジェクト①

課題: 吉賀町の人が高津川の魅力に気づいてない



プロジェクト: 吉賀町の小中学生を対象に「川遊び」

【7/31に朝倉の川遊びに参加】

- ・子どもたちはみんな遊んでいた
- ・大人は見ていだけで川に入ろうとしない

【変更した点】

- ・子どもではなく大人を対象とした活動を考える

仮説

大人が運動する機会を増やす



吉賀町でも楽しく活動ができることに気づく



体を動かせば健康になる

プロジェクト②

課題: 大人の運動不足



実践: 吉賀町の人を対象に「グラウンドゴルフ」



七カ祭りで企画

日程: 11/9(土)

対象: 七日市地区の人

内容: グラウンドゴルフコーナー
「ころころぽん」



気づき

- ・大人より子どものほうがたくさん来てくれた
- ・一人ずつしかできないから混雑した

しかし、本当のwill

自分たちが本当にやりたいことは、1年次にやったような蔵木の子どもたちと関わる活動だ！



プロジェクト③

課題：蔵木の子どもたちの関係が人数が少ないため広がらない



小学生と高校生の交流機会を増やす

目的

蔵木の子どもたちと横と縦の繋がりをつくるため



仮説

普段関わることの少ない高校生と関わることを新鮮に感じ、楽しんでもらえる

蔵木小学童の子どもたちと実践したこと

日程 12月13日
内容 希望調査



日程 1月17日
対象 蔵木小学童
内容 雑巾リレー
宝探し(おかし)
サッカー、鬼ごっこ



子どもたちの感想

- お菓子が好評だった
- たくさん体を動かした
- いつもと違う人と遊んで楽しかったと言ってくれました
- △グループ分けは力の差も考えてほしい



失敗

ぎりぎりになって行動した



早めの行動

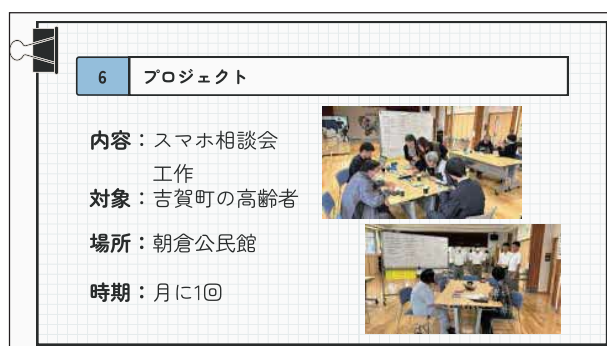
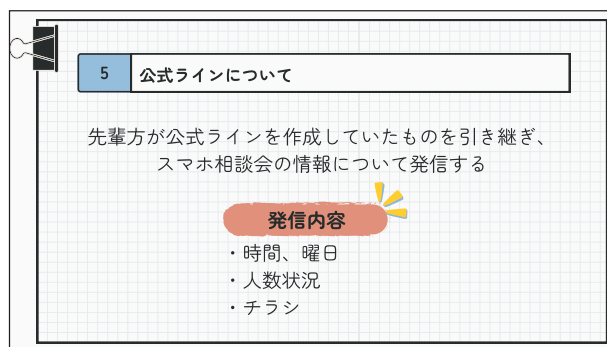
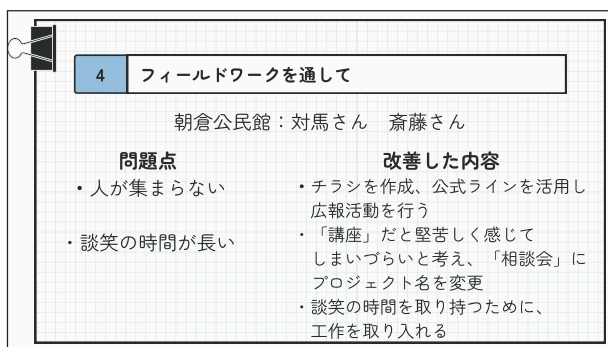
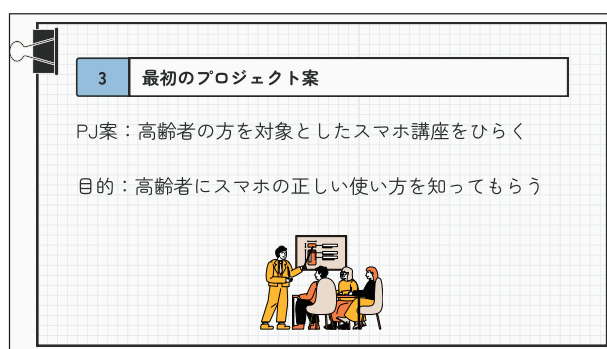
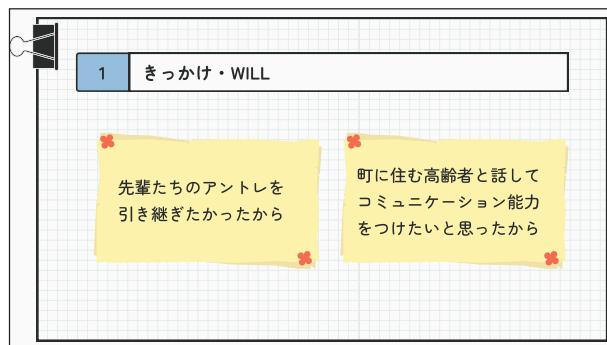
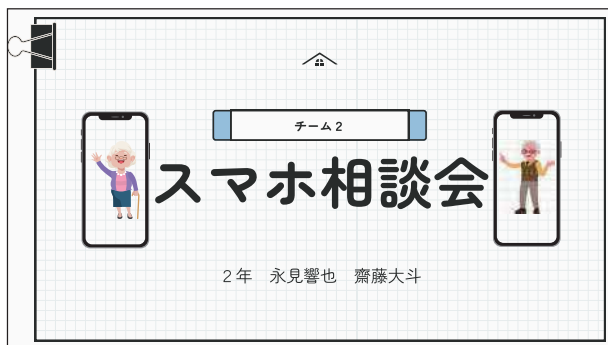
成長したこと

- ・計画を立てる
- ・本当にやりたいことをやるのが大切

お世話になった方

- ・タカラバ 斎藤義徳様
- ・双葉保育所園長 朋澤公香様

ありがとうございました



7 仮説の検証・測定

仮説：自分たちがスマホの使い方を教えると、
高齢者はスマホの細かいことを理解できる
ようになる

効果：今までよりも高齢者の方たちがスマホの
細かい部分を理解することができる

測り方：アンケート・観察



8 スマホ相談会

行った日

・10月31日、12月9日、1月29日

時間

・13:30～15:30

内容

・1時間程度のスマホ相談会
・30分程度の工作
・アンケート



9 工作を行う理由

- ・スマホの検索機能を利用し、探したいものを見つける
事によってスキルテストになる
- ・談笑の時間を取り持つために行う
- ・手を動かして脳を活性化させる脳トレにも繋がるから

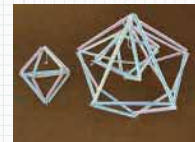
10 工作

今までの工作

ジャックオーランタン



ストローひんめり



11 アンケート内容

・相談会の満足度とチラシや公式ラインでの
広報の効果についてのアンケート内容です

- ・参加した6名の方がアンケートに回答
- ・スマホ相談会は満足できた・・・100%

→解決できたから、スマホが使えるようになったから

- ・広報
- ・友人の紹介・・・83% 公式ライン・・・17% チラシ・・・0%



12 良かった点・改善点

良かった点

- ・余った時間で工作を行ったこと
→高齢者の方と仲良くなった
- ・広報活動を行ったこと
→相談会に参加して下さる
人が増えた

改善点

- ・チラシを貼る範囲を広げる
→七日市と朝倉に範囲を拡大
- ・ホワイトボードを活用
→聞かれたことをまとめる。新しく
来た方が質問しやすくなる。

13 今後の予定

- 1,スマホ相談会の内容を考える・チラシの作成
- 2,より多くの人に知ってもらうためにチラシを貼る
範囲を拡大する
- 3,活動範囲を広げて朝倉以外の地域での
スマホ講座を行う

お世話になった方

- 朝倉公民館 ・能美勝臣さん
・斎藤心咲さん
・対馬尚子さん

ありがとうございました

子ども食堂プラス

2年 チーム3

藤田文人 有田冬翔 齋藤寛汰 村上昶太郎

子ども食堂のきっかけについて

1年生の時、

子ども食堂にお手伝いに行った

⇒来てくれる子どもが少なかった

⇒子どもに気軽に来てほしい

2年生になって

7月FW社会福祉協議会

- ・町内の子ども食堂に来てくれる子どもの数が
だんだん増えている
⇒子どもの数がこれ以上増えなくても良い
(ぐるぐる食堂)
- ・インスタに投稿、アンケートをとる時は、
子ども食堂の方々に確認
- ・高校生企画をやってみたいという事を伝えた

9月FW ぐるぐる食堂×松乃湯

木部谷温泉の近くの公民館で子ども食堂開催！！



自分たちがしたこと

- ・配膳
- ・盛り付け
- ・子どもたちの見守り
- ・企画運営

鮎ご飯が
超うまい！！



子ども食堂での気づき

- ・子どもたちが思ったよりすごく活発だった
- ・室内で遊んでいてガラスを割って
しまう可能性あり
- ・保護者さんがご飯を作っているときに遊ん
でいることを見る大人が少なくて危険

仮説

高校生が企画をして、子ども食堂の日に
遊ぶ場所や時間をつくる



安全に子どもたちも大人たちもそれぞれ
楽しめる！
子ども同士の交流でより仲良くなってもらおう！

プロジェクト内容



子ども食堂でご飯を食べる

柿木の中山に移動

大人が様子を見ながら食べ物を焼いたり
中山の遊具で遊ぶ



みんなで自然
を遊び尽くす
姿に感動！！

ぐるぐる食堂×高校生企画!!

12月1日

はじめにぐるぐる食堂に集合しお手伝い
(受付、配膳など)



高校生企画

中山に移動し、焚き火!!

持ってきたものを焼いて食べた
(マシュマロ、タコ、ウインナーなど)



◀竹を工作し、串を作っている様子



マシュマロやエビを▶
焼いて食べている様子

高校生企画の自分たちの役割

- ・子どもたちの見守り
- ・食材(企画用)の調達
- ・ぐるぐる食堂のお手伝い

大人の方の役割

- ・料理を作る
- ・消防の方へ連絡

楽しかったこと 大変だったこと

- ・焚き火で食材を焼いた事
- ・子どもたちの先導
- ・一緒に遊んだこと

チラシ・アンケート

イベント告知
ポスター

食堂の方に協力を頂き、小学校の保護者に周知



プロジェクト
の効果を測る
ためのもの

事後アンケート 参加した子ども10人

- ・友達と仲良くなった 変わらない：40%
仲良くなった：60%
- ・また参加したい 100%
- ・楽しめた 100%

失敗

- ・メモをとらなかった
なぜ…記録を残しておく意識が足りなかった
- ・大人に頼ることが多かった
なぜ…中山で火を使う上で消防への連絡を任せてしまった
- ・子どもたちを制御できていない
なぜ…高校生たちの準備不足、子どもたちへの対応がわからなかった

改善策

- ・普段から授業などでメモを取る癖をつける
- ・地域の方と連携できるようにこども食堂のボランティアのお母さん方に連絡先を聞いてみる
- ・自分たちが普段からシャキッとしてハキハキ喋る

今後の予定



- ・齋藤寛汰は子ども食堂でギター演奏
- ・文人、冬翔は調理の手伝いをする
- ・村上昶太郎は別のテーマ(中山開拓)で活動

お世話になった方々

社会福祉協議会

ぐるぐる食堂の皆さん

ありがとうございました!!

強いつながりを持った地域を作る

2年 4班 谷脇伊香 高久倫太郎

きっかけ

1年のときにアントレで六日市公民館にお世話になったから

最初に考えたPJ案

日付→12月7日

場所→六日市体育館

対象→小学生から高齢者

イベント内容→ゲーム大会 1,2switch

FW1

11月 六日市公民館

・機材の準備

→プロジェクター、switch

・イベント

→対象の年齢によってイベントの内容を変えるというアドバイスをもらった



FW2

11月 税務住民課

・外国人をイベントに誘うときの工夫

→チラシの作り方

やさしい日本語

アプリ(VoiceTra)



失敗

・12月に企画していたイベント

→準備が間に合わず2月に延期

・スマホにメモしていた内容が消えてしまった

今の小学生が六日市についてどんなふうに考えているのか、知りたい

アンケート

12月中旬に六日市小学校3,4,5,6年の合計57人を対象にしたアンケート

1, 六日市の良さ

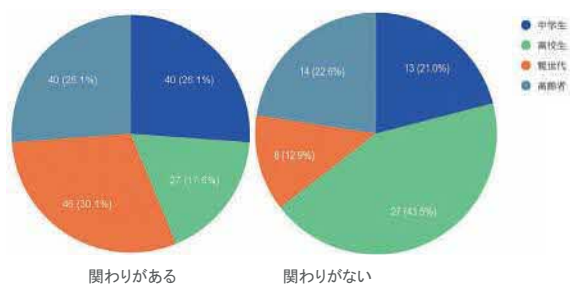
2, 地域の人との関わりについて

アンケート結果

1, 六日市の良いところ

- ・自然がきれい
- ・人が優しい
- ・ご飯が美味しい
- ・店がいっぱい
- ・挨拶
- ・地域の人との交流会
- ・360°に広がる山
- など

2. 地域の人との関わりについて



結果を踏まえて

小学生と高校生に絞ってイベントをやる

PJ

日付→2月1日

場所→六日市公民館

対象→小学生と高校生

募集方法→チラシ

イベントの参加人数→7人

(小学生4人、高校生3人)

イベント内容→ゲーム大会 1,2switchとカードゲームなど



PJのようす

マジック実践！

一緒にカードゲーム



振り返り

初めてのことが多かったけど、「たのしかった」という声が聞けて嬉しかった



イベントを企画、運営する側に
たってみてとても大変さを知ることができた

今後どのようにするか

テーマを経済に変更して活動する

成長したこと

- ・意見が言えるようになった
- ・責任感が強くなった
- ・対応力が身についた
- ・言われた内容や言葉などをうまくまとめられるようになった

お世話になった方々

六日市公民館 清水 愛美さん 向井 恵さん
吉賀高校支援室 坂田 紀之さん
吉賀町役場税務住民課 小濱 明未さん

5班 吉賀町のゴミ捨て

2年 近重優真 佐古俊希

私たちのWILL

吉賀町のゴミの分別が正しく行われていない

- ・燃えるゴミとプラスチックゴミが分別されていない
- ・プラスチックが汚れたままで出されている



- ・作業員を雇うお金がかかる
- ・作業員の労働時間の負担が増える



ゴミの分別の情報を地域の方々にも伝えたい

目指す理想の状態

01

吉賀町のゴミ分別が正しく行われている
可燃ゴミやプラスチックなどのゴミがしっかりと分別されている

02

吉賀町の屋外にゴミが落ちてない状態にする
ポイ捨てや放置されていない状態にする

最初に考えたPJ

分別のやり方を地域の人に伝える

メリット：ゴミ処理のスピードが上がり、コストも下がる

課題：人に見てもらう、集める必要があり、効果も分かりにくい

町内1回目のFW

吉賀町役場



吉賀町のゴミ捨ての現状を聞きに行った

重要な部分をピックアップすると…

ゴミの分別にもお金がかかり、
分別できていないと税金が増える
ごみ処理場の作業員の負担が増える

貰った資料



活動の様子（吉賀町役場）



町内2回目のFW

鹿足郡リサイクルプラザ



実際にゴミを分別している作業員を見たり、負担を聞きに行った

ゴミの分別が正しく行われないと

作業員の労働時間の負担が増える
また汚いゴミを手選別で分別するので精神的負担も増える
危険物が紛れ込んでいる可能性があるため作業員の方が怪我をする

聞いたことの情報整理

- ゴミ処理には負担がかかっている
分別が正しく行われていないため、ごみ処理場の人件費が高くなる
また労働的負担、精神的負担が増える
- 回収できないゴミを持ってきている
回収できないゴミを回収所に持ってきたりしている
町が捨てるわけにもいかず、そのまま収集所に放置されているものもある

新しいPJ案

**地域団体のイベントに参加させてもらい、
スライドを用いて発表する**

対象：地域の方々

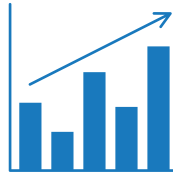
内容：ゴミ分別のわかりやすいスライドを使って発表する

実行：3年生の成果発表会まで

仮説、検証方法

仮説：ゴミの分別が良くなることで、吉賀町が使うお金が少なくなる
ゴミ処理場の人の負担が少なくなる

検証方法：吉賀町役場・吉賀町リサイクルプラザへ負担が軽減されたかなどのアンケートを実施する



失敗

PJ準備が遅すぎた

スライドの作成に時間がかかってしまい、PJ実施のタイミングが遅れた

地域団体に相談をしなかった

地域団体に相談しに行くことができずに、参加できるイベントが無かった

チームで果たした役割

佐古：スライド作成
フィールドワーク、アポ取り

近重：PJの考案
PJ用のスライドの作成
吉賀町役場・吉賀町リサイクルプラザ用のアンケート作成

今後の活動

- ・吉賀町のイベントを開けそうな施設に訪問しゴミ分別のスライドを発表する
- ・スライド発表の回数を増やす
- ・吉賀町役場・ゴミ処理場の作業員の方々にアンケートを取る

アントレを通して学んだこと

佐古
スライドを作る時間をかけすぎて発表する日程を組むことができなかった

近重
コミュニケーションと時間の大切さに気づきあまり良い状況でないのを悲観視しすぎている部分があるので直したい

お世話になった方々

吉賀町役場 桑原 健児さん

鹿足郡リサイクルプラザ 笠江 竜介さん

ありがとうございました

中庭アップデート

2年 6班
内田唯 小田宣明

最初のテーマ（Will）では

自然な物を利用し環境問題の減少を目指したい

例 地球温暖化の原因である森林伐採など

→環境問題に対してどのような対策をしているのか気になり吉賀町産業課に行った

第1回フィールドワーク

吉賀町役場産業課

いわもと つばさ
岩本 翔さん

木の事について
・木の伐採は持ち主次第
・歪な形の木はチップにしてバイオマス燃料にする

第1回FWを終えて

反省点

FWの中で、テーマが壮大すぎて活動を進めていくのが難しと感じた

改善策

身近な自然課題に注目しPJを考え直すことにした

新たなテーマ

中庭にはあまり置いているものが無く、何か置いたら雰囲気良くなるのではないかと考えた

伐採された×タセコイアについて



令和6年7月24日×タセコイアに落雷



×タセコイアを残すか伐採をするか議論



11月8~9にかけて伐採されることになった

中庭を整備するために

中庭を整備するために何をするかチーム内で話し合っていた。



話し合いの結果、伐採された×タセコイアを活用してなにかできないかという結論になった。

仮説

「現状」

吉高の中庭が使える状態ではない



僕達の中庭を整備したら、みんなが使って交流できる中庭にアップデートのできるのでは！

学校横断型PJでもらったアドバイス

- ・ 使いやすいように椅子やテーブルを丸くする
- ・ 木の手入れなどをしっかりやる
- ・ 安全性をしっかりする
- ・ 背もたれを作ったほうがいいよ

事務室に相談に行った

伐採された×タセコイアを活用して中庭に
テーブルや椅子を設置したいことを伝えた
加工する道具や防腐剤を使わせてもらうことができた

伐採された×タセコイアの一部です



僕達がやった活動内容

- ・ ×タセコイアの切り株を整える
- ・ ヤスリを使い切り株の表面をさらさらにする
- ・ 防腐剤を使い切り株の表面に塗る
→ 腐敗を防ぐため

アフトレで失敗や後悔したこと

- ・ 最初にやるテーマの活動ができなくなってから決め直すまでに時間がかかりすぎたこと
- ・ フィールドワークのアポを取るとき先生方やアポ先の方々に迷惑をかけたこと

自分たちが成長したこと

宣明：自分ひとりだけではなく人と協力することで人との関わり方について成長できた

唯：人任せにせずに自分でできることを見つけてられるように少し成長した

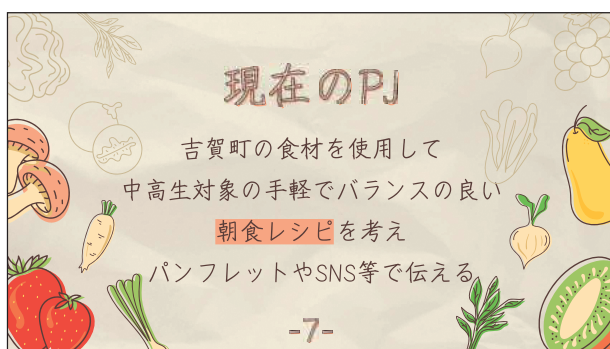
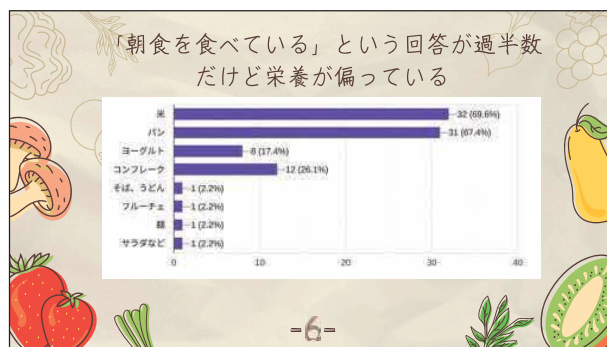
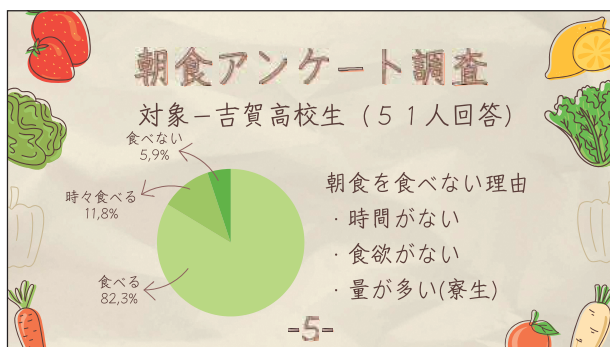
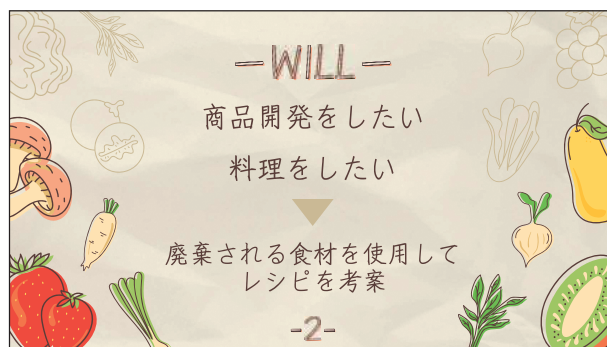
今後の予定

- ・ 中庭をなるべく草のない状態にする
- ・ 椅子とテーブルまでタイルで道を作る
- ・ 生徒や教員に意見を求める
→ アンケートをとる

お世話になった方々

吉賀町役場産業課
岩本 翔さん

ありがとうございました



第3回 FW

食生活改善推進協議会 三浦さん
管理栄養士 松原さん

レシピ作成のアドバイスを受け、
試食に向けて買い出しに行った

↑ミーティングの様子、買い出しの様子↓

-9-

試食会

-10-

春

旬の春キャベツを使った味噌汁

ご飯
鮭の混ぜ込みご飯

味噌汁
鮭とキャベツの味噌汁



夏

夏野菜のトマトとチーズを使っておしゃべり!

ご飯
梅干しの混ぜ込みご飯

味噌汁
トマトとチーズの味噌汁



-11-

秋

豆乳でまろやかな味わいに

ご飯
長芋としらすのご飯

味噌汁
さつまいもと豆乳の味噌汁



冬

体が温まるようにキムチを豚汁にin

味噌汁
豚汁とキムチの味噌汁



-12-







-13-

試食アンケート結果

味の濃さ
・良い
・もう少し濃くても良い

感想
・栄養バランスがしっかりしていて良い
・作ってみたい

-14-

アントレで成長したこと

- ・ 能動的に動くこと
特にFWや試作の際に、みんなで声を掛け合いながら頑張れた
- ・ たくさんの人に頼ること
地域のいろいろな方にサポート頂くことで、様々な情報を得ながらPJを進めることができた

-15-

お世話になった方々

サンマート：下家さん
吉賀町役場 柿の木庁舎産業課：堀田雅和さん、村上詩織さん
食生活改善促進協議会：三浦万利子さん、皆さん
栄養管理士：松原佐也加さん
坂田紀之さん

-16-

笑顔×健康

2年 チーム8
齋藤琉晟 茅原優斗 岩原由奈 内田柚奈

1

創りたい未来

“ 高齢者の方に笑顔で
健康に過ごしてもらう ”



“ テーマを選んだ理由
医療系の仕事に興味があったから ”

2

■ 笑顔の効果

- ・ ストレス軽減
- ・ 免疫力UP↑↑
- ・ 認知症、生活習慣病予防

日本ケアコミュニケーションズより



医療の専門家ではない自分たちができる健康対策は、
高齢者に笑顔になってもらう活動をするのではないか



3

■ 現状

吉賀町に住む高齢者の方が多い

高齢者の割合

吉賀町
44.3%

全国
29.3%

2024年度リサーチ調査

■ 仮説

高齢者に笑顔が増えると
健康な人が増えるのではないか

5

■ 町内FW 7月17日 社会福祉協議会さんへ

高齢者サロン

- ・ つながり作りが目的
- ・ ご飯作りやゲームなどの活動をしている
- ・ サロンで活動される方は体を動かすことが好き

6

■ 町内FW1回目（田野原）

R6 10月16日

ミニ運動会！

社会福祉協議会さん進行のもと
ふれあいサロンに参加

- ・ 玉入れ
- ・ ボール運び
- ・ 輪投げ
- ・ パン食い競争など



■ 1回目FW気づき

- ・ 社会福祉協議会さん臨機応変に対応しておられた
- ・ ルールは簡単に正確に説明していた
- ・ 自分たちが声を出して盛り上げると
笑顔がたくさん見られた

8

町内FW2回目（幸地）

R6 11月28日

自分たちの企画

- ・野球ゲーム
- ・紙コップ神経衰弱



野球ゲーム・・・社会福祉協議会の方にお話を聞き
体を動かすことが好きだと聞いたから
紙コップ神経衰弱・・・記憶力の向上を目的
として行った



2回目FW気づき

- ・高齢者が困っているときに
アドバイスやヒントを与えることで
成功を導くことができた
- ・説明は実際にやってみせるほうが伝わった

10

高齢者の笑顔のために意識してきたこと

- ・自分自身も笑顔で参加する
- ・前向きなリアクションで盛り上げる
- ・得点掲示をすることでモチベーションを高める
- ・明るい声でルール説明をする
- ・アドバイスやヒントを与える

11

町内FW3回目（六日市デイサービス） R7 1月38日

- ・50～100歳と幅広い方がおられる
- ・看護師やケアマネージャーの方もおられる
- ・スキンシップが大切
- ・意見を聞くことも大切

12

仮説検証

高齢者に笑顔が増えたか。



FWではたくさんの笑顔に出会えたが
客観的なアンケートが必要（今後）

13

成長したこと

- ・二回目FWで自分たちが紙コップ神経衰弱を
行ったとき、難しいと困っている方に対して
ヒントを与えて成功に導くなど臨機応変に対
応することができた
- ・高齢者の方の安全を考慮した企画を考えるな
ど、先を見通して計画を立てることができる
ようになった

14

今後の活動

- ・デイサービスの普段の活動に参加、
自分たちの考えた企画を実施
- ・高齢者サロンに加えて、デイサービスの
ような支援が必要な方にも笑顔になって
もらえる活動を考える
- ・アンケートを実施

15

協力してくださった方

社会福祉協議会

北川春名さん

安永美由紀さん

六日市デイサービス

澄川麻弥さん

ありがとうございました

16

多世代スポーツ



in 田丸地区

9 班 2 年 廣瀬颯 守田陸人

私達のWill

- ・地域の人と運動を通して交流したい

仮説

- ・スポーツイベントをする

地域で交流ができる

体を動かす
ことによって、運動を習慣化でき、
健康に過ごせるようになる

第1回FW 7月19日

社会福祉協議会 松本さん



聞いたこと

吉賀町内のイベントの現状

- ・吉賀町では室内のイベントが多く、多世代でのイベントが少ない

プロジェクト案①

多世代でのグラウンド・ゴルフ大会

目的・支え合える関係を作ること

- ・健康に過ごせるようになること

↓
このプロジェクトでは結果を数値で提示することが難しい
→プロジェクト変更

第2回FW 10月22日

田丸地区自治会長

矢富幸信さん

聞いたこと

- ・高齢者が多い
(30%が80代以上)
→高齢化が進んでいる



地域のNeeds

- ・高齢者だけでの交流はあるが
- ・多世代での交流がない
- ・若い人と交流がしたい



プロジェクト案②

対象：田丸地区の人

田丸地区の敬老会で人気のイベント

場所：よしかみらい

内容：運動指導、脳トレクイズ、ボッチャなど

誰でも座ってできる簡単な運動

なぜ運動指導？



日本人の死因

- 1位 がん
 - 2位 心疾患
 - 3位 老衰
- 生活習慣病が原因

なぜ運動指導？

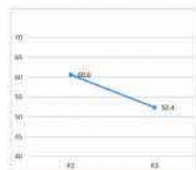


図2 ウォーキング等の運動生活1回以上している人の割合（出典：H22）

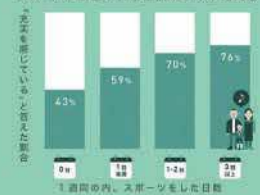
令和4年度健康アンケート集計結果
吉賀町役場 保健福祉課

吉賀町（R4年）
運動する習慣が
どんどん減少傾向

運動の効果

生活習慣病を
予防するために
運動する習慣をつける

スポーツの頻度と日常生活における充実感



1週間以内、スポーツをした日数

運動の効果

運動指導と習慣は
つながりがあるとこの
グラフを見て言える



12月、1月に実施予定だったが、
準備不足や感染症の影響により
イベントは延期

失敗点

- ・計画力がない
- ・行動が遅い



イベント開催 2月2日（日）

森下純さん（えびすジムのスポーツトレーナー）を招き
運動教室を開催



寝ながらできる
足、腰のストレッチ



しまね探究フェスタ

探究フェスタでは県内の高校生が集まり、自分たちの
探究の発表の場で、多くの高校生や大人の方に探究の
アドバイスや問いなどをうけて探究の意欲が高まった



今後に向けて

吉賀町の人々に健康でいてほしい



運動教室後にアンケートを実施して、
教室で行った運動がわかりやすいよう
にポスターなどにまとめて配布する

お世話になった方

吉賀町社会福祉協議会 松本 源太郎様
田丸地区自治会長 矢富 幸信様
えびすジム 森下 純様
高津川てらす事務局 野見山 朋子様
ありがとうございました

商品開発

2年 10班 永島箔人 藤本拓人 潮拓実 渡邊徠

Will

地元の食材を使って商品化したい

最初のPJ案

対象：吉賀町の地域の人

内容：作物を荒らす害獣を調理して美味しくして商品化して食べてもらう

※害獣にした理由はジビエ料理をたくさんの人に知ってもらいたい から

第1回FW内容 9月

柿の里さん

商品化するための手順を聞いた

手順

材料の確保→試作→調理場の確保→
保健所で営業許可→調理→販売



第2回FW内容 11月頃

吉賀町役場産業課 堀田さん

猟師さんに肉を譲ってもらう経緯

→産業課から紹介されて自分たちで行く

害獣の被害はどのくらいあるのか

→被害アンケート:200万円以上

わかったこと

猪肉をゲットするのが難しい



違うプロジェクトを考えたほうがいい

新しいPJ案

対象：吉賀町の地域の人

内容：地元の食材を使ってソースを作る

第3回FW内容 1月

柿の里さん

野菜ソースの作り方を聞きに行った

手順

①野菜を切る

②フライパンに移す

③調味料を入れて煮込む

第3回FW後PJ案

産業課の方から猪肉がもらえたから、野菜ソースと猪肉のPJを同時に進めることに！

柿の里の方がメンチカツを作ったら美味しそうだと
言っていたので、メンチカツを作ることにした。

試作(猪肉メンチカツ)の様子 1月



猪肉を塊でもらったので
ミンチにする作業が大
変だった。
だけど楽しかった！

先生方13人に試食し
てもらった

試食結果

- ・味はちょうどよかった
- ・意外と脂っこくなかった
- ・猪肉の臭みがなかった

一方で

- ・メンチカツの味が薄かった

今後の予定

- ①猪肉ラーメンと猪肉のメンチカツを作って 柿の里
に持って行って意見を聞く
- ②調理場の確保、保健所の営業許可をとる
- ③商品化する

猪肉ラーメンを作ろうと思った理由

試作一回目のときに猪肉を茹でたスープに塩コショウ
を入れて飲んだら美味しかったから地元の野菜と猪
肉を使った健康的なラーメンを作ってみることにした

これから深化させたいこと

柿の里さんに協力を得ながら添加物を使わない猪肉ラーメ
ンと地元の野菜を使ったソースを添えた猪肉のメンチカツを
商品化して柿の里でおためし販売する

アントレ活動での気づき

- ・第2回のフィールドワークで行った役場産業課の方
から猪肉を調達するために猟師さんに直接連絡して
いただき、人とのつながりが大事だと気づいた
- ・PJを進めるための手順や計画をしっかり立てられ
なかった

アントレ活動で成長したこと

- ・逆算してプロジェクトを進める
- ・行動力(プロジェクトが決まってすぐFWに行った)
- ・コミュニケーション能力(FWでスムーズに会話できた)
- ・情報の整理(FWで得た情報をうまくスライドにまとめることが
できた)

お世話になった方々

柿の里 山脇 裕子(やまわき ゆうこ)さん
吉賀町役場産業課 堀田 雅和(ほった まさかず)さん

ご協力ありがとうございました

おすそ分け文化を守りたい

2年 11 中山 明・中山 和

このテーマにした理由

- ・おすそ分け文化を守りたい
- ・自分たちだけで野菜を育てて、誰かに喜んでもらいたい
- ・7月に植えるなら落花生が良いのではないかな
- ・近所の人々が落花生を育てている



おすそ分け文化を守りたい理由

- ・おすそ分けを通して交流が深まる
- ・年々減ってきているのでなくならないでほしい



7月 調査・フィールドワーク

長安さんと

- ・落花生を植える
- ・落花生の育て方
- ・落花生の試食



11月落花生を収穫



気づき

- ・ビニールハウスの中でプランターで育てたので、すぐ土が乾くため毎日水やりをするのが大変だった
- ・落花生は土の中にできることを知った

仮説

落花生をおいしい料理にしておすそ分けしたら交流が増え、喜んでもらえるのではないかな



プロジェクト1

対象：校内の人

内容：塩茹でをした落花生を食べてもらう
アンケートを書いてもらう



校内試食会 アンケート (回答数 26)

どんな料理に使うといいか

- ・味の評価が高い
(高評価26人)
- ・17人の食べたことなかった人に食べてもらえた

1	サラダ
2	ご飯
3	肉料理

校内試食会 振り返り

- ・次もっと美味しく作るために茹で時間、塩の量を計っておけば良かった
- ・あまり関わりのなかった先生方・生徒の皆さんと交流することができた

プロジェクト2

対象：職場体験でお世話になったヨシワ工業の皆さん
内容：残りの落花生を使ってアンケートでもらった料理のアイデアをもとに料理を作って
おすそ分けしたい
(アンケートも実施)

1月24日 長安さんと落花生ごはん作り(試し)



1月29日 落花生ごはん作り・ヨシワ工業さん訪問 (本番)



ヨシワ工業 アンケート(回答数 27)

- ・おすそ分けをしたこと、してもらったことがある人が多かった(19人)
- ・おすそ分けをしたときの気持ち
「喜んでもらえると良いな」(20人)
- ・おすそ分けしてもらったときの気持ち
「嬉しい」(19人)

活動を通しての学び

- ・企画したことを行動に移すのが難しかった
- ・実際に自分たちがおすそ分けをしてみることで人に喜んでもらうことの楽しさを実感した
- ・ネットではおすそ分けに対してマイナスなイメージもあるが、自分たちの活動の中では喜んでくれた

お世話になった方々

長安俊治さん 長安真澄さん
ヨシワ工業の皆さん

ありがとうございました

書道×多文化共生

2年 吉村柚紀

このテーマを選んだきっかけ

WILL
書道、外国、交流

CAN
書道

FUTURE
対人関係の仕事に就きたい

地域づくりアーカイブスの動画で外国の子どもと日本の子どもが文化（言葉や伝統芸能など）を通して交流しているのを見た
→自分も書道を活用して外国の人と交流しよう！

最初のプロジェクト案

対象者：吉賀町に住む外国人
内容：書道を体験してもらう
関わる人：書道の先生（母）、外国人労働者を雇っている企業、多文化共生のイベントを開いている方

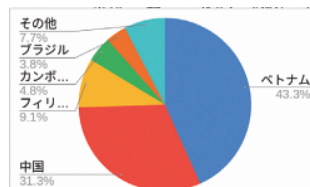
【具体的な内容】

- ①日本語教室＋漢字紹介
- ②好きな漢字、日本語を選ぶ
- ③書道で書く

調査

吉賀町内の外国人の割合

・5763人中208人が外国人（吉賀町役場HP）
→約3.6%を占めている



調査

吉賀町の取り組みを調査（吉賀町役場HP）
・ゴミカレンダー→分別図鑑を外国語に変換
・自動翻訳機→外国人への貸出
・多言語表記封筒→役場からの文書や案内
・やさしい日本語教室→年1回開催した年もある

プロジェクト実施の前に・・・

- ①日本文化のイベントのニーズがあるのか
- ②外国人向けイベントを開催や企画するポイント
まだ知らない・・・

→多文化共生にまつわる仕事をしている人や
外国人労働者に関わっている企業の人にインタビューしよう！

フィールドワーク

吉賀町役場住民課 小濱さん 電話インタビュー
ヨシワ工業取締役部長 吉野さん 電話インタビュー

電話内容

小濱さん
→吉賀町内で外国人雇用している企業がないか
→ヨシワ工業

ヨシワ工業 吉野さん
→どこの国の人がいるか、日本語が話せる人はいるか
日本語が読める人があるか

気づいたこと

- ・外国の人がヨシワ工業の中だけで60人いること
- ・ベトナム、中国、フィリピンの中でベトナム出身者が最も多いことがわかった
- ・日常会話、挨拶程度の日本語が話せる外国人労働者がいることがわかった

日本文化に関する調査

アンケート

- ・日本文化について知っているかのアンケート作成
→ベトナム語、日本語、中国語、英語で作成
→冬休み前に実施予定だったが、アンケートの翻訳確認が終わらずまだ準備段階

作成したアンケート

日本文化に関するアンケート

総合的な探究の時間(アクト)という授業で外国の方々に日本の文化(書道)を知ってもらい、体験してもらえたらいいイベントを作りたいと思っています。

そのために外国の方々のニーズ調査をさせていただきたいので、日本文化についてのアンケートにご協力をお願いいたします。

Q1 お名前を教えてください

Q2 出身国はどこですか？

Q3 書道について知っていますか？
(数字に丸をつけてください)

1 知っている 2 少し知っている 3 知らない

Q4 日本文化体験(書道)に関するイベントが開催される場合、参加してみたいですか？
(数字に丸つけてください)

1 参加してみたい 2 参加したくない

Q5 書道の他に知っている日本文化はありますか？
(箇条書きで書いてください)

ご協力ありがとうございます。

吉賀高校2年 池村 健

イベントのイメージ

- ①私が日本語教室を開き、漢字を紹介
- ②外国人参加者が好きな漢字、日本語を選ぶ
- ③外国人参加者が書道で②で選んだ字を書く
- ④書いた作品を折り紙などで飾り付けして家に飾ってもらう

イベント実施に向けてやること

- ・アンケート調査を実施
→日本のことについてどれくらい知っているかなどを知るため
- ・企画の準備
→書道道具、半紙など
- ・チラシ作り
→外国人向けのイベントチラシの作成&企業、役場に配布をお願いする

学校横断型プロジェクトでの学び&気づき

他校の高校とオンライン交流

学び

- ・いろんなことに興味を向けることが視野を広げる事がわかった

気づき

- ・自分が浮かばなかったことの発見ができた
→書道で字(漢字)だけではなく、ひらがななどを活用する

活動を踏まえて考えた仮説

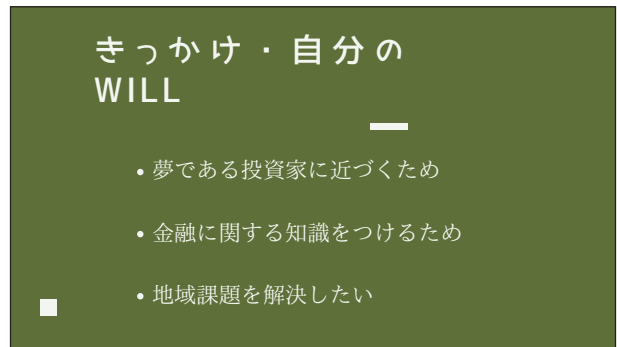
吉賀町の多文化共生の現状として、、、
外国人が日本の文化に触れる機会が少ない

私が、
書道を通じて、外国人が日本の文化に触れるイベントを開催することによって

参加してくれた外国人の人々が、、、
他の外国の方々に、日本文化へ興味を持ってもらうきっかけを作ってくれて、日本文化が広がるのでは？

お世話になった方々

吉賀町役場住民課 小濱明未さん
ヨシワ工業取締役部長 吉野かおりさん



町内FW第1回

西中国信用金庫の吉賀支店、有田さん

理由：自分は資産運用に関してネットで調べるしかしなかったから
どんな資産形成があるのか
現場の人に聞きたかったから

質問の内容

①最新の資産運用を学ぶ勉強方法がありますか？
A youtubeなどのSNSは最新の資産運用に関する知識を得ることができる

②日本全体的な経済的な問題はありますか？
A少子化によって年金制度が不安定になっている

夏休みの調べ

最新の金融に関する必要性や問題点を見つけるためにSNSなどを使って年金制度や詐欺、新NISAやiDeCoの資産運用を夏休み中に調べた。

夏休み中にできたこと

- youtubeなどで資産運用への理解を深めることができ金融詐欺や日本の現状の金融に関する問題点を知ることができた

夏休み中の反省

- 経済新聞などの経済ニュースをもっと見聞きして実際の詐欺被害や資産運用の例を知れば、このあとのプロジェクトのスライド作りやクイズを作るときなどに、もっとタイムリーな問題を出すことができた

近年SNS型の投資詐欺件数は増えている

投資詐欺被害は年々増加している。様々な年齢層で被害は増えている。詐欺の種類も増えつつある。例えば利殖商法と呼ばれる詐欺があり、先物取引や替取引や健康食品等の販売事業などへの投資への勧誘が含まれる

Japan Date SNS型投資詐欺
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h02035/>

資産運用が必要になりつつある理由

①インフレによって物の価値が年々上がっており、銀行の預金の金利では物価に間に合わず買いたいものが年々買えなくなっている。この状況から預金ではなく資産運用が注目されている

資産運用の必要性 - 投資信託

京都銀行
<https://www.kyotobank.co.jp/toushi/start/asset>

資産運用が必要になりつつある理由

②年金の受取額が年々減っていることにより現役世代が将来的にもらえる年金が少なくなっている

URL: 百五銀行
<https://www.hyakugo.co.jp>
ためる・ふやす・投資信託

資産運用へのイメージ

資産運用へのイメージはあまり良くなく、中にはなんとなく怖いという先入観から行動をしない人までいることがわかる



<https://www.smbc.co.jp/kojin/money-viva/nozokimi/0001/>

解決したい課題 どんな未来を創りたいか

- 増加している金融関連の詐欺被害を減らしたい
- 知らず知らずに起きてしまう損失をなくしたい

プロジェクト

対象：地域の中高校生
内容：金融に関する講演を開く
理由

- ①投資詐欺などに騙されないため
- ②資産運用の必要性を紹介するため

プロジェクトの効果測定
アンケートをして講演内容に関して問いかける

作ったスライド



- ①実際の金融に関する詐欺を例にスライド作り
- ②本当に今の若者に届けたい金融に関する詐欺の実例や資産運用情報を調べ直した

今アフトレの反省点

- 準備で時間を長く取りすぎて活動ができなかった
- 知識に関する学びはとても難しかった

失敗から乗り越えたこと

何度も自分の発表用のスライドを添削してもらい、みんなが楽しめるようにクイズ形式にしたり問題点の洗い出しをした

成長した点

資産運用に関してiDeCoや新NISAまた株式投資等の知識を得ることができた。また日本全体の経済に関する年金や詐欺の問題についてよく知ることができた。

お世話になった人

西中国信用金庫
支店長 有田健太郎さん

ありがとうございました。

⑭

将棋と地域

2年 / 樽井将斗

きっかけ

- ・将棋は年齢関係なく遊べる
- ・祖父と将棋をよくすることから着想を得た

Need

地域の方の新たな居場所、趣味を作ることができる

Will

将棋を使い、三年間お世話になる吉賀町に恩返しをしたい

最初の計画

将棋を身近に感じてもらうため、将棋を知らない人でもできる将棋のストラップ作り



ストラップ作りでは子どもやお年寄りでも安全に作成できるようにペンで字や絵を書くだけにした



11月7日 七カ祭り
(場所：七日市小学校)
将棋の駒の形に削った木材に絵や漢字を書いてもらいストラップ作成



将棋好きの小学生と将棋で対戦等の交流



ストラップ作り

松原工務店の松原さんに協力していただき、廃材からストラップを作るようになった。大まかな形に削ってもらい、穴あけ作業も手伝っていただいた。角をヤスリで整え、ニスという保存料を塗るという最終作業は自分でやった。

失敗

ニスは木の色に合わせたものを使用しましたが、塗り方が未熟だったせいで緑色に変色した。その後変色したニスをもう一度ヤスリで削り落とした



現在のプロジェクト

- ・朝倉将棋同好会に参加し活動内容を把握
- ・自分で将棋を広める会を企画し、地域の方を招待することを予定



自分で将棋の会を開く理由

将棋を通して地域のいろんな年代の方々とつながってもらいたいと考えたため

会を運営することで自分の管理能力を身につけることができるため

なぜ朝倉？

朝倉将棋同好会では将棋初心者の方でも参加することができて居場所を作ることに成功していた



仮説

地域のこどもや大人を対象とした将棋の会を開くことで地域の人の新しい居場所や繋がりとなる



朝倉公民館で朝倉将棋同好会に参加
(毎月第2土曜日)

朝倉将棋同好会に参加して分かったこと

- 将棋が上手い人だけでなく人との関わりがほしいという理由で参加している方もおられた
- 同好会等の地域の集まりは居場所として機能していることもわかった

反省

○効果測定を行うことができなかった
七力祭りでストラップ作り参加者対象にアンケートをとる予定だったが、当日までのトラブル対応が重なりアンケートが実施できなかった
⇒自分で開く予定の将棋の会にてアンケート実施

成長したところ

言語化能力

頭の中にある計画を人に話したりスライドに書くことで言語化能力を鍛えることができた

計画力

廃材や地域創生等、様々な分野を織り交ぜたアントレを行ってきたおかげで視野が広がった

アントレと進路のつながり

大学で地域学を学びたい
年齢に関係なく共に過ごせる組織づくりができるような職業を目指したい
⇒アントレでは自分で地域にできることを見つけ解決する能力不足を実感
⇒地域における組織づくりの文化や事柄などを学びたい

お世話になった人

朝倉将棋同好会 会長
井川 嘉美さん
松原工務店 店長
松原 知毅さん



こども食堂×多文化共生

15 2年 小田優之朗

01 一年時の取り組み

空き家問題がテーマ

取り組み

空き家の動画を撮影し、サイトに乗せた

反省点

NEEDに対してWILL、CANが伴ってなかった
成果

訪問先での話をまとめる力が身についた

02 WILL



将来外国に行きたい
外国人と関われるならなんでも...



先輩のプロジェクトを参考にする
し、学校給食に外国の伝統料理を出す

03 吉賀町の現状

吉賀町に住む外国人の割合
が年々増えている



04 仮説



外国人と地域住民がお互い住みやすい環境を作る必要がある
※外国人が抱える問題を把握していない



異文化について理解し、距離を縮めることが住みやすい環境を作る一歩になる

05 1st Plan



吉賀町の学校給食で外国の伝統的な料理を給食風にアレンジし、児童や生徒、教職員に食べてもらう

- ・食文化なら直接コミュニケーションを取るよりハードルが低い
- ・食を通じて文化の違いを知ってもらえる

06 第一回フィールドワーク

吉賀町役場税務住民課
小濱明未さん

取り組み

- ・日本語教室
- ・優しい日本語を普及

外国人が抱える問題

- ・ゴミの分別、ゴミ出しがわからない
- ・交通ルールがわからない
- ・ポスターが読めない
- ・偏見の目で見られる



07 フィールドワーク後

対象が給食を食べる人のみになる

プラン（学校給食）とNEED（地域全体の異文化理解）が噛み合っていない
幅広い世代、人に異文化理解をしてほしい
し、プロジェクトの見直しをした

08 2nd Plan

役場からの依頼

- ・ポスター作成（ゴミ、交通ルール）

地域住民の異文化理解

- ・料理を通じた場作り
- ↳ フードフェスに参加を企画



9 第二回フィールドワーク

吉賀町役場税務住民課

ヒアリング

日本語教室の生徒は復習の機会がほしい

2ndプランの提案をした

↳ プランが2つあると中途半端になってしまう
可能性があるためどちらかに絞るべきと助言を受ける

場作りを選択◎

↳ こども食堂なら子供だけでなく大人も来る



10 なぜこども食堂？



- ・持続的なつながりを重視
- ・準備や運営のハードルを考慮
- ・日本語教室の復習の場と機会になる
- ・給食と同様に食文化は異文化理解のハードルが低い

11 ボランティア

12/1に柿木のぐるぐる食堂へ参加

ぐるぐる食堂

斎藤野乃子さん

三浦布美さん

・外国人の招待を提案

↳ 以下の二点が懸念事項として

挙げられた

- ・食材の調達にネック
- ・外国人の遠方からの移動方法が限られる



12 これから

外国人の方をこども食堂へ招待

↳ 移動手段については大人に協力してもらおう
小濱さんに連絡を取りながら形にしていく

食堂のスタッフとイベントの計画中

↳ 2月23日に役場勤務の中国人・包楽楽さんに協力してもらい、麻婆豆腐丼と自家製ラー油を提供した。次回はより偏見を解消できるような場作りを企画したい。

13 偏見にフォーカス

偏見の解消が住みやすい環境づくりになると思った

小濱さんに教えていただいた実際にあった偏見の例

- ・外国人は皆、英語を喋れる

↳ 日本語のほうが分かる人が多い

- ・外国人は野蛮な人が多い



14 振り返り

- ・後回しにしたからアポ取りまでが遅かった
↳ 自分の活動ができなかった
- ・自分の考えだけが先行して関係各所との日程調整がうまくできなかった
↳ 現状を役場と食堂に共有する
- ・問題を認識してないうちにプロジェクトを立てた
↳ 現状の問題を把握してから行動に移す

お世話になった方々

吉賀町役場

- ・小濱 明未さん
- ・包 楽楽さん

ぐるぐる食堂

- ・斎藤 野乃子さん
- ・三浦 布美さん

ご協力ありがとうございました

個人事業したいから勉強しよ

二年 藤田禮嘉

最初に考えたプロジェクト案 ～楽しい場作り～



最初は三人でアントレを始めた

最初・・・川関係のアントレがしたい 子どもと関わりたい

理由は川が好きだから

一年の時、子どもと関わったから

FW①、②

①タカラバという川関係の団体所属、斎藤義徳さんにお話を聞いた
内容

夏休み中（7、8月）に川関係のイベントはあるのか
予定されている場所、日時など

②川遊び

内容

7月31日 朝倉公民館のイベント 朝倉地区の川に入る
小中学生の子供達と川で遊ぶ

FWに行ってみて



子どもに比べて大人が動かない
川に入ろうとしない

大人をターゲットに
やってみよう

大人に受ける運動を考えてみた

地域の人がよくやっていて、
ご年配の方でもできること

グラウンド・ゴルフだ！

計画

11月 七カ祭りに参加
グラウンド・ゴルフゲームを企画する

ルール

1人2回

1回でも入れば成功
入らなくても参加賞



気づき

大人は来たけど高齢者(約80歳以上)が多かった

大人をターゲットにしていたが

子どもがたくさん来た

やっぱり子ども達の方が接しやすい



次の計画

自分たちで計画してイベントをする

体を動かすイベント 子どもをターゲットにする

ある日

中村美楠子先生のお話を聞いた
今のアントレに意味があるのか、
将来のためになるのか、
まだ間に合う



これじゃだめな気がする
やってみたいことをやろう

やることを変える

今の班を離れて一人でする

将来につながることをする

やりたい内容でする

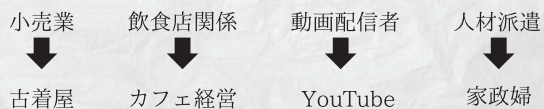
やりたい内容

個人事業

お金稼ぎ



将来してみたい個人事業



今後の計画

事業家にあって話を聞く

マーケティングについて勉強したい

ビジネスプラングランプリに参加する

ビジネスプラングランプリとは

日本政策金融公庫が主催している

学生が対象のグランプリ

将来を担う若者の創業マインドを向上させるのが狙い

全国規模の大会

どんなビジネスプランにするのか

条件

- 地域のためになること
- 需要と供給がちゃんとしていること
- 自然を利用すること
- お金をかけすぎないこと

理由

- どうせ考えるなら地域のために
- 今のうちに実践を通して学びたい
- 古賀町の特徴である中国山地を利用したい
- 実現性のあるものにしたい

反省

将来性よりも、一瞬の感情に流されてしまった

楽しかったし、簡単だったけど
なにか物足りなさを感じていた

一人になるのが遅かった

一人でやってみて効率が良かった、やりたいことができる
すべてを把握できる
もっと早く一人になれば…

成長したこと

行動力

今までは、他の人に任せきりの
アントレで自分から動かなかった
やりたいことをするために一人になった

責任感

一人になったことで、責任はすべて自分に
でも、あまりプレッシャーにならなかった

アントレと進路のつながり

将来は個人事業や自分で会社を立てたり
自営業したりなどを考えていて
それには、マーケティングや需要と供給
みんなのニーズなどを理解することが大切だと思っている
このアントレを通して少しでも社会を理解し、
他の事業者や会社の考え方を知っていきたいと思っている
その簡単な予行練習だと考えている

お世話になった人

タカラバ所属

斎藤義徳さん



1年間のアントレを振り返って

■1年生感想

- ・初めてのことでばかりで緊張する場面がたくさんありましたが、経験することで少しずつですが慣れることができました。しかし、まだ発表する場面などになると緊張します。校内パン販売はかなり良いプロジェクトだと思いました。



- ・他者と協力するところやコミュニケーション力についてはアントレを通して成長させることができたと思います。また、子どもとの接し方がわからなかったけどチームの人と共に子どもと接することで話しかけ方など、学ぶことができました。



- ・自分の思い通りにいかず、辛く感じることもあったけど、アントレでお世話になった柿木公民館の人やイベントを通して関わっていただいた地区の皆さんにずいぶん助けられました。おかげで柿木地域の人が大好きになりました。これからもアントレやそれ以外の地域のイベントも含めていろいろと関わりたいと思いました。2年生になったらさらに地域の人が盛り上がるができる企画を考えたいと思います。

- ・自分から率先してあまり動かず人任せにしてしまったという反省があるので、2年生のアントレでは自分から率先して活動したいと考います。また、自分は初対面の人と話すことが苦手でしたが、大人と話す経験も重ねることで以前よりは話せるようになったと思います。2年生になっても自分の成長を感じられる活動をやっていきたいと思います。



- ・この1年間で身につけた力は自分から意見を言う力です。公民館の方や大学生の方と会話する際、年齢が上ということもありどのような話題で話しかければいいかわからず、あまり話せませんでした。しかし、時間と共に打ち解けてきてイベントについてアイデアを出し合うことでコミュニケーションが取れるようになりました。しかし、東京の企業訪問ではまだまだ力が発揮できなかったのもので、この反省を2年生のアントレで生かしたいと思っています。

■ 2 年生感想

- ・ 1 年生のときの反省を活かしいろんなことが成長したと思います。2 年生でもグループ活動でしたが、1 年生のときよりも自分なりに考えて意見を言えるようになりました。この学校の魅力でもあるアントレの活動を県外の方にも、どんどん発信したらいいのではないかと思います。その意味では学校横断型探究プロジェクトで県外の高校生に向けて自分の探究活動を発表したり、相手の活動の感想を伝えたりする交流もいい経験になりました。



- ・ 最初は違うテーマでしたが進めていくうちに何か違和感を持ち、途中で自分たちの納得のいくテーマ内容に変更しました。実践的な活動をする時間が少なくなり、たくさん苦戦したことはありましたが最後までやり続けることができて良かったです。3 年生では不足していた実践的な活動を計画的にやりたいと思います。

- ・ 1 年生の時は他の人に任せてしまうことが多かったけれど、今年は調べることや地域の方と連絡を取るなど主体的に責任を持って行動できたと思います。そのため地域の人の思いを聞きながら、そして自分たちのやりたいことを伝えることでコミュニケーションがうまくとれるようになったと感じました。また、いろいろな年齢の人の話を聞くことで自分の知らない考え方や経験が聞けて面白かったです。3 年生に向けては将来の進路のことも関連付けて活動できるようにしていきたいと思いました。

- ・ 自分の will に沿ってアントレを進めることができましたが、地域の needs がどれくらいあるのかという指摘についてはうまく答えられませんでした。地域の人との交流を通してどのような needs があるかインタビューの必要性を感じました。また、地域のお祭りに参加し自分なりのイベントを開催できたのですが、来場者対応で精いっぱいになってしまい、アンケートなどの効果測定ができませんでした。これからも自分が企画したイベントを開催したいと考えているのですが、きちんと計画したうえでアンケートやインタビューなどをおこないきちんと検証できるように頑張ります。



吉賀高校アントレ 講評

関西国際大学 経営学部 教授 樋田 大二郎

みなさんはアントレを通してどのように、悩んだり、苦しんだり、喜んだり、嬉しく感じたりすることができるようになりましたか？

今回発表されたテーマの1つは「笑顔×健康」でしたが、この班はもともと「自然×医療」をテーマにしていました。どちらのテーマも重要な社会問題に挑戦しようとしており、どちらが正解というわけではありません。Will（自分たちがしたいこと）とCan（できること）とNeeds（地域の需要＝地域貢献）を考え吉賀町の老人の笑顔を増やして健康になって貰う取り組みを始めたとのことでした。また、高齢者スマホ相談会の取り組みでは、「スマホ講座」から「スマホ相談会」へと名前を変更しています。「講座」ということばでは堅苦しい印象をあたえるため、気軽に参加してもらえるように「相談会」に改めたそうです。この取り組みが回を重ねるたびに内容が変化して、高齢者のニーズに応える姿勢は印象的でした。

「よしかの里」の取り組みではテーマの変化に関する報告はありませんでしたが、高校生がチャレンジし、成長する姿をしっかりと見せていました。よしかの里では複数の事業をおこなっており、その1つがしてコッペパン作りの就労継続支援事業（B型）です。高校生にとって、よしかの里は身近だが実態の分からない施設でしたが、訪問することで、ふわふわして美味しいコッペパン作りをしていることに感動したとのことでした。そして、さらに話を聞く中で、働く人たちの工賃が安いことを知り、工賃を増やすために売り上げを伸ばす方法を考えました。福祉施設で作られるコッペパンが一般の商品としても評価されることを目指し、毎週水曜日に吉賀高校でコッペパンの販売が実現しました。さらに、ただ売るだけではなく、揚げパン増量キャンペーンや、高校近くのスーパーでの対面販売にも挑戦して売り上げアップに成功しています。

私は、今紹介した3つの取り組みに限らず、みなさんの取り組みがPDCAを表面的に理解するだけでなく、予めPlanしたテーマや内容に縛られずに、テーマや内容を取り組みの中での成長させていくことこそが吉賀高校のアントレの意義だと感じています。アントレが始まった頃はPlanを立てることがゴールだったのとは隔世の感があります。

アントレを通して吉高生は、教室の授業で身につく学力とは異なる能力を獲得しています。発表の中で次のような力が身についたことが語られています。

- ・コミュニケーション能力が身についた
- ・広い視野が得られた

- ・主体的に提案できるようになった
- ・相手のことを考えることができるようになった
- ・先を見通して計画を立てることができるようになった
- ・周りを見て行動したり臨機応変に行動したりすることができるようになった

これらは、蓄積しただけの死蔵知識や休眠知識ではなく、活用する知識が身につけていることを示しています。自分のためだけに役立つ利己主義とは対照的に、アントレでは社会貢献主義が培われています。また、アントレで得られた楽しい体験やワクワク・ドキドキする瞬間は「自己満足」ではなく、他者との「共感」を生み出すものであると感じます。

高校時代は多感な時期であり、その後の人生の土台を築く重要な時期とされています。この貴重な時期に「活用する知識」を身につけ、他者との「共感」を深め、地域の人たちや同級生、先生との交流を通じて得られた経験を、一生の宝物として役立てて欲しいと思います。

最後に発表について1つだけ指摘を申し上げたいと思います。発表の内容は間違いなく素晴らしいものでしたが、発表の仕方において緊張や「上手に発表しなければ」という意識が見受けられました。そのため、発表者から直接に伝わる感動がやや減少してしまったように感じられました。聴衆はみなさんがアントレを通じて、悩んだり、苦しんだり、喜んだり、嬉しく感じたりする力をどのように成長させたかを知りたいと思っています。発表者の心と頭と行動の成長が同時に感じられる発表を目指してください。

最後になりましたが、みなさんと交流した大学生に代わって、素晴らしい学びに参加させていただいたことを感謝いたします。

法政大学 キャリアデザイン学部 教授 寺崎 里水

一年間のお休みを経て、久しぶりに吉賀高校の活動に立ち会うということで、個人的には期待値がかなり上がっていたのだが、2024年度は8月に行われた大学生との協働活動の一部と、10月の東京研修の企業訪問最後のまとめの会にだけしか参加できなかった。

一年生の活動について、8月末の大学生と一緒にフィールドワークに出る時点で、ほとんど何も具体的なことが決まっていない班が多かった。8月といえば、高校入学後4ヶ月経ち、それなりに情報を集めていることが想定される。しかし、大学生が自分とともに活動する高校生の考えたこと、やってきたことについて、参照できるような資料はほとんど用意されていなかった。やりたいことがはっきりしている班と、ほとんど何も考えておらず、割り当てられたテーマについて、割り当てられた町

の大人の話を取りあえず聞いてこようとする班との差は大きい。この差は毎年のことだが、解消に向けて、高校は指導上の工夫が必要であろう。

一学期、まずアントレに取り組む姿勢づくりに時間がかかるということであれば、吉賀高校に行くと必ずアントレがあり、活動をしなければならないということが、入学生（入学志望者）に共有されていないということになる。高校の学校紹介活動、志願者の勧誘活動がうまくいっていないとみなし、そこから改善すべきだろう。

あるいは、活動の存在自体は知られているものの、高校生の「やりたいこと」がないので困っているということであれば、「やりたいこと」に依存した指導が立ち行かなくなっているという現実を踏まえた、別の指導法を工夫すべきであろう。その際、高校生の「やりたいこと」が学校のやらせたいことと一致するとは限らないことには留意する必要がある。高校生の「やりたいこと」の意義や価値がわからなくても、「やりたいこと」なのだからと伴走するのかについては、あらかじめ高校生に関わる人たちで合意を形成しておかなければならない。

とはいえ、近年の若者は、自分の半径1メートルのことにしか関心がないという指摘もあるので、その範囲を超える出来事についてはそもそも「やりたいこと」どころか興味も関心もないという高校生がいることも理解できる。自分の生きている世界の「外」の出来事が、いかに自分の世界に影響を持っているのかということを学ぶのが、高校の理科や社会科、家庭科等、教科教育の役割だと考える。アントレの時間だけではなく、各教科の活動を通じて、いかに世の中を自分ごととして捉えるのかを学ぶのが、本来のキャリア教育の目指すところである。もし高校生が「外」の出来事を自分ごととして受け止められていないのであれば、アントレという優れた取り組みを探究の時間のなかだけに閉じ込めていないか、見直してほしい。

例年になく辛口の講評を書いていると自覚している。高校生の活動そのものは、後述するように、結果として優れた成果を挙げた場合がある。それは生徒自身の資質・能力と吉賀高校の先生方とスタッフ、そして地域の方々のおかげだと評価できるが、そのことをもって吉賀高校の今のアントレのあり方が成功しているとは言えない。一年の活動を振り返り、情報を公開し、実践を改善し、地域の人々と協力して生徒への働きかけを変えていこうとする取り組みがあったようには見えないからである。アントレにおけるこのような取り組みは、多忙である高校教師にとって負荷が高いのは間違いない。だからこそ、教員免許を持った教員が、学校内には職員会議や教科会議等を通じて、学校外には役場やNPO、社会教育機関、大学等とこまめに連携を図りながら、情報を公開し、知恵を募り、教育実践として記録を残しながら、進めていく必要がある。こういった取り組みをしようという心意気は、私

が活動に加わったころの吉賀高校にはあった。アントレを年間のスケジュールの決まった「手順」として地域コーディネーターに丸投げするのではない、校長をはじめとする教員の熱を感じる瞬間があった。

桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群 准教授 山崎 慎一

吉賀高校のアントレ事業における大学生交流プログラムは、地域の未来を担う若者たちにとって、非常に意義深い取り組みでした。高校生は、大学生との対話を通して、自分の考えや価値観を見つめ直し、地域や社会と自分との関わりを主体的に捉え直す貴重な経験を得ていました。大学生にとっても、高校生の素直で自由な発想や地元根ざした視点に触れることは、自身の学びや将来を見つめ直す良い契機となっていたように感じます。

両者の交流は単なるアドバイスや支援にとどまらず、相互に学び合う関係性が築かれていた点が印象的であり、教育的にも高い価値を有する内容でした。このような世代を越えた対話の場は、地域づくりとキャリア形成の双方において今後ますます重要になると考えられます。その一方で、自分自身の反省として、少し大人側が出過ぎている時がある印象も持ちました。今後とも継続的な実施をしていくとともに、より生徒や学生の主体性に重点を置いた活動が展開されることを期待しています。

LUCK 株式会社 小川 凜一

1. はじめに

私は LUCK 株式会社という教育に関する会社を経営しています。書店で販売される子ども向けの本(『こども六法』など)や、全国の高校で使われる教材やカリキュラムなど、教育に関わるあらゆるクリエイティブを考え、作る仕事をしています。

以前、全国の高校で使うアントレの授業教材を作る仕事があり、アントレについてよくわからなかった私は、その先進的な事例として吉賀高校を知ることとなりました。以降、吉賀高校を紹介する映像を作ったりと、3 年近くご一緒させていただいています。

大学の先生方はきっと学習・研究的な観点から講評をされると思いますので、私は「実際の社会に皆さんが出た時」という観点から講評をさせていただきます。

2. 今年の講評-生徒のみなさんのよかった点(来場者の感想参照)

3. 今年の講評-生徒の皆さんの改善すべき点

「聴こう」とする姿勢は、みなさん素晴らしかったのですが、私はもっと「わがまま」になって良いと思いました。これは決して「若いんだからもっとのびのびやりなよ」という意味ではありません。あなたの「わがまま」こそが

社会に必要なのです。

「誰かの困りごとから出発すること」は決して間違いではありません。住民の感じている困りごとを解決することとは、地域に発生した不足、「マイナス」を取り戻すために努力をすることで「ゼロ」に近づける取り組みです。あれもない、これもない、という「マイナス」が積み重なった地域は、暮らしにくいものになってしまうでしょう。それを解決する取り組みは重要なことです。

しかし誰かの困りごとは、「あったものがなくなった」からこそ発生するものです。今までカフェを見たことがない人からは、「カフェが足りない」という言葉は出てきません。今回多かった「若者との交流の機会の不足」という地域からの声も、「(昔はあった)若者との交流の機会の不足」という過去との比較に基づいているからこそ生まれるものではないでしょうか。

つまり、「誰かの困りごとから出発すること」は、「過去あったものを取り戻すこと」ことはあっても、「新しいものを生み出すこと」は難しい場合があるのです。繰り返しますが「マイナスをゼロにする」取り組みも大切なことです。しかしそれだけでは、今を守ることはできても、地域は発展しにくいものとなります。

「ゼロからプラスを生み出すもの」それこそが、あなたの「わがまま」なのです。

私は、今回の発表で「皆さんが断念した初期案」こそが素晴らしいものだと思います。「自然を医療につなげる」「音楽イベントをする」「スポーツ大会をする」などなど。どれも皆さんの「わがまま」からスタートしたものではないでしょうか。これらこそ、誰も見たことがない吉賀町を作り出す大きなイノベーションのヒントであったと思います。断念の理由は色々あったかもしれませんが、その理由がもし「地域に求められていないから」だったら、その断念は大きな間違いです。だって、パソコンだって作られた当初は誰も求めていなかったのですから。誰も求めていないものでも、素晴らしく新しいものは、後でみんなが「必要だった」と気づくのです。私の仕事で『こども六法』という仕事があります。「いじめや虐待に対して、子どもが法律で自衛する手段を」という目的で、多くの出版社に「あなたの会社で出版しませんか」と持ち込みましたが、どの出版社も「子どもは法律を必要としていないから」という理由で断られ、仕方なくクラウドファンディングで資金を集めて本を作りました。結果、本は多くの子どもたちの手に取られ、80万部を超えるヒットとなり、『こども六法』の真似をしてどの出版社も「子ども向けの法律書」を作るようになりました。

必要かどうかはあなたが決めて良いのです。SNSなどで広い視野を持っている高校生のあなただからこそ、吉賀町を「違う角度」でとらえることができる。そして、その地域に暮らす人が「想像したこともない必要」を見つけることができる。あなただけが持っている誰も見たことがない「必要」、すなわち「わがまま」こそが、地域を変え、国を変え、世界を変える力に違いないと、私は信じています。